



OWNERS MANUAL

オーナーズマニュアル

取扱説明書
品質保証規定
盗難補償規定

FELT からお客様へ

このたびはFELTバイクをお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。
お買い上げいただいた自転車は、最高の水準を満たす安全性と性能を発揮するよう、入念に製造、調整されております。長年にわたってFELTバイクをお楽しみいただくためには乗車前の点検と定期的なメンテナンス（整備）が必要です。

FELTバイクは対面販売を基本としており、正規販売店により正しく組み立てられています。お受け取りの際には取り扱い方法、及び使用方法の適切な指導を必ず受けてください。また安全のためヘルメットの着用と自転車保険への加入をおすすめします。

品質保証および盗難補償はオンラインでのユーザー登録が必要になります。

お買い上げ日より30日以内に必ず弊社Webサイトにて手続きをお願いいたします。

URL:<http://www.riteway-jp.com/regist> もしくは「ライトウェイ ユーザー登録」で検索してください。

※登録手続きがわからない場合はご購入頂きました販売店へご連絡ください。

オーナーズマニュアルについて

自転車を安全で快適にご使用いただくために、オーナーズマニュアルをよくお読みいただき、十分にご理解されてから自転車をご使用ください。不適切な取り扱いや点検整備の不足は、人身事故につながる危険があることを十分確認の上、ご使用ください。

- マニュアルをご覧になって、組立て・調整・操作方法など分からない場合は無理をせず、必ずご購入頂いた販売店へご相談ください。
- お買い上げの自転車についてご質問がありましたら、販売店にご相談ください。
- お買い上げの自転車にあてはまらない内容も含まれますが、ご容赦ください。
- お読みになった後は大切に保管し、必要に応じてご利用ください。また、お買い上げになった自転車を他人に譲渡される場合は、このオーナーズマニュアルも一緒にお渡し願います。

FOR YOUR SAFETY AND CONFORT, IF YOU ARE ALIEN WHO LIVE
IN JAPAN, PLEASE ASK SOMEONE WHO UNDERSTAND THIS
MANUAL TO MAKE DETAILED EXPLANATION FOR YOU.

ページ 目次

1	ご案内
2	今すぐご確認ください
2	締め付けトルクの表示の説明
2	安全のための表示の説明
3	自転車各部の名称
4	正しい使用条件
4~5	乗車前の点検と確認
6~7	安全上の注意
7~8	交通ルールを守りましょう
8~15	点検と調整（各部のしくみ）
15~22	正しい取り扱い方法
22	カーボンフレームとフォークの取り扱い説明
22~23	お手入れと保管（注油）
24	品質保証規定
25	盗難補償規定 定期点検と整備
26	定期点検と整備リスト

今すぐご確認ください

①盗難補償

品質保証および盗難補償を受けるにはオンラインでのユーザー登録が必要になります。お買い上げ日より30日以内に必ず弊社Webサイトにて手続きをお願いいたします。
URL:<http://www.riteway-jp.com/regist>
もしくは「ライトウェイ ユーザー登録」で検索してください。

②防犯登録（有料）

必ず販売店で防犯登録をしてください。これはお買い上げの自転車の所有者を証明するためのもので、法律で義務付けられています。

③お買い上げいただいた時点での確認

- 販売店が実施するお買い上げ時点での初回点検内容を確認してください。
- お買い上げいただいた自転車の取扱い方法等を販売店よりご理解いただくまで説明を受けてください。
- ご乗車になられる方の体型に合わせて、ハンドルやサドルの位置等をお買い上げ販売店で調整してください。

④お買い上げ後の定期点検（有料）

自転車は使用に伴い、傷んだりネジが緩んできます。これを放置して使用を続けると重大な故障につながりますので「定期点検」を必ず実施してください。点検と整備の不足は車体の破損や人身事故につながる危険があります。

⑤ご使用中に自転車の不具合を感じた時

直ちに使用を中止し販売店にご相談ください。

⑥乗る練習の実施

公園や空地など安全な場所で練習を行い、慣れてから一般の公道でご乗車してください。

⑦保護者の方へ

お子様がご使用になる場合、必ず保護者の方が取扱説明書をお読みいただき、十分にご指導してください。

締め付けトルク

組み付けを確実にしていただくために締め付けトルクを表示していますが、これはあくまで一般的な基準です。

- 部品や部品の専用説明書などに締め付けトルクが表示している場合はそれに従ってください。
- 締め付けトルクは不足の場合だけでなく、過剰の場合もトラブルの原因になります。
例) : 締め付けトルク : 18~20Nm (180~200Kgf・cm)

安全のための表示の説明

ご使用になる方や他人への危害、また財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただきたいことを次のように説明しています。

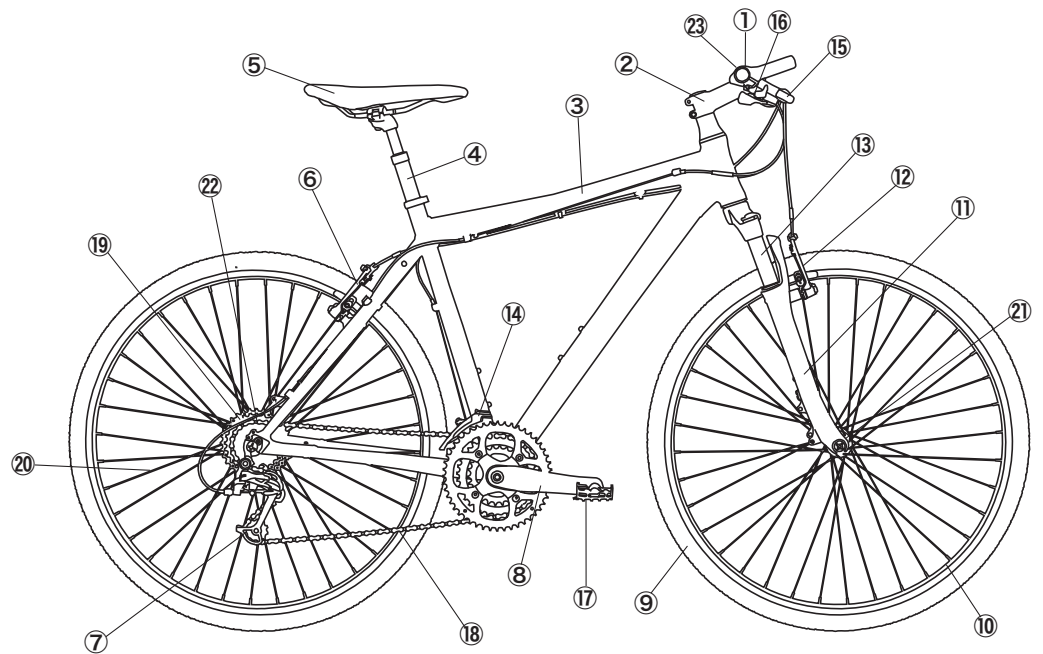
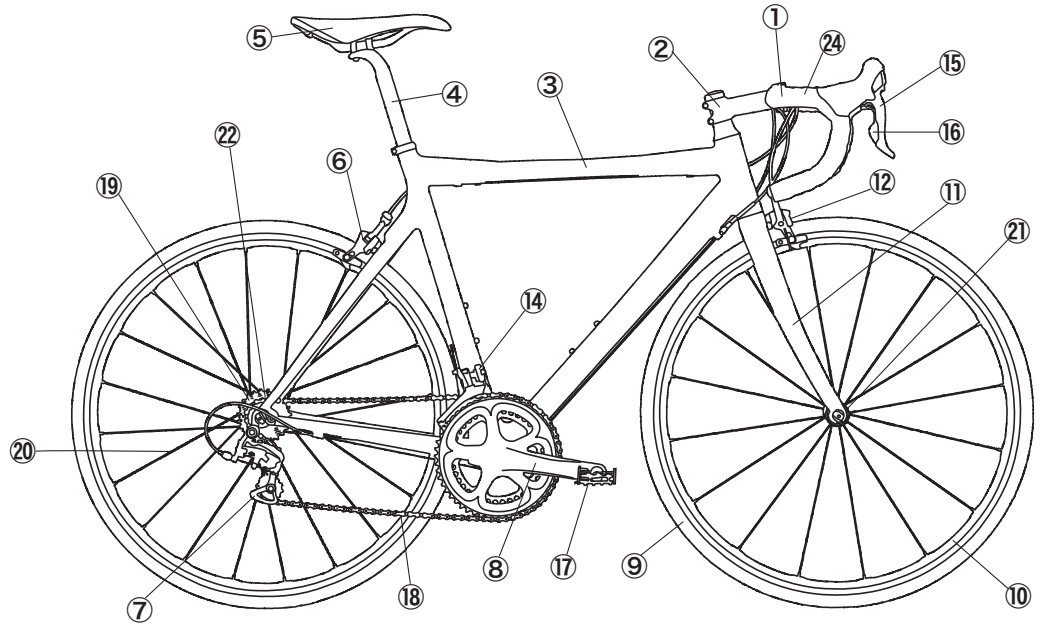
- 表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危険や、損害の程度を次の表示で区分し説明しています。

	警告	この表示は、「取り扱いを誤った場合、使用者が死亡、または、重傷を負う可能性が想定される」内容です。
	注意	この表示は、「取り扱いを誤った場合、使用者が障害を負う可能性が想定される場合、及び物的損害のみの発生が想定される」内容です。
	禁止	この表示は、「安全上してはいけない危険行為、および保証の対象外の行為をあらわす」内容です。
	強制	この表示は、「使用者に必ず実行していただく」内容です。

自転車各部の名称

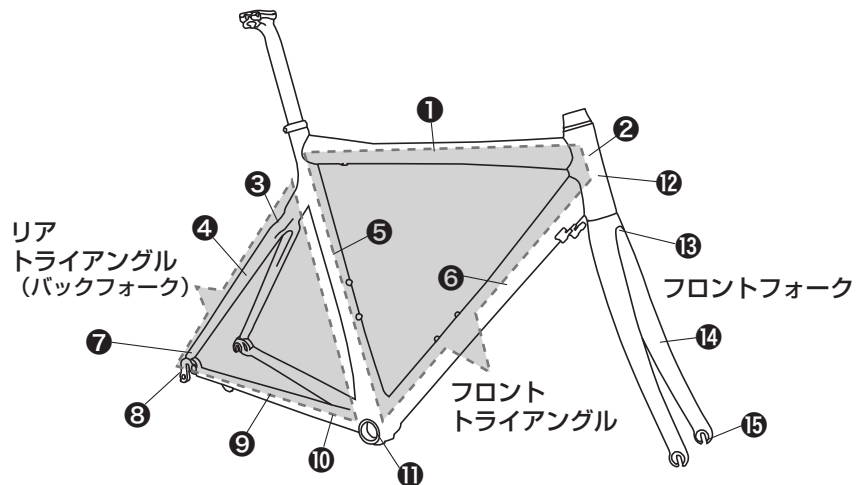
自転車の名称

- ①ハンドルバー
- ②ステム
- ③フレーム
- ④シートポスト
- ⑤サドル
- ⑥リアブレーキ
- ⑦リアディレーラー
- ⑧ギアクランク
- ⑨タイヤ
- ⑩リム
- ⑪フォーク
- ⑫フロントブレーキ
- ⑬フロントサスペンション
- ⑭フロントディレーラー
- ⑮ブレーキレバー
- ⑯シフトレバー
- ⑰ペダル
- ⑱チェーン
- ⑲フリーホイール
- ⑳スポーク
- ㉑フロントハブ
- ㉒リアハブ
- ㉓グリップ
- ㉔バーテープ



フレームの名称

- ①トップチューブ
- ②ヘッドチューブ
- ③アッパーブリッジ
- ④シートステー
- ⑤シートチューブ
- ⑥ダウンチューブ
- ⑦リアエンド
- ⑧リプレイサブルハンガー
- ⑨チェーンステー
- ⑩チェーンステーブリッジ
- ⑪ボトムブラケットシェル
- ⑫フォークステム (ステアチューブ)
- ⑬フォーククラウン
- ⑭フォークブレード
- ⑮フォークエンド



フレームの例

正しい使用条件

車種	大人車	子供車	幼児車
車輪サイズ	700C、26、27.5、29インチ	24～20インチ	18インチ以下
乗員体重(kg)	65	40	20
常用速度(km/h)	15～24	8～18	5～8
最大積載重量	10kg以下	5kg以下	—

乗員体重

- この自転車を設計する上で想定した標準的な乗員の体重です。
- 想定した体重を上回る方が常用した場合は、消耗度合や劣化度合が大きくなり、自転車が破損する場合があります。
- 100kgを上回る体重の方の常用は中止してください。

常用速度

- この自転車を設計する上で想定した基本的な速度です。
- 想定した常用速度を上回っての走行は危険です。



警告 高速での事故や転倒は大けがの恐れがありますので、スピードはいつも控えめにしてください。

乗車前の点検と確認

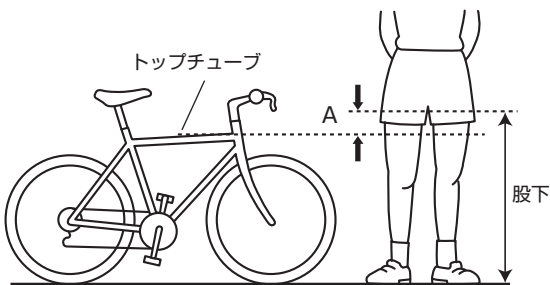


注意 安全を確保するために、各部の調整と点検の注意点を守って確実に行ってください。これをおこたりますと思わぬ事故につながります。

- ご不明な点がございましたら販売店にご相談ください。
- 調整はお子様させないようにしてください。

フレームサイズのチェック

- お買い上げになった自転車が自分の身体に合っていることをご確認ください。
- 自転車が大き過ぎたり、逆に小さ過ぎたりした場合、コントロールしにくくなって乗りづらく危険で、短時間の走行でも身体の部分的疲労が発生する場合があります。
- カタログに表示されている「適応身長」はあくまで目安ですので、実際に自転車がまたがって確認してください。
- 自転車がまたがった時、股下とトップチューブとの間隔が確保されていなければなりません。間隔が無い場合は自転車が大き過ぎますので乗らないでください。
- 股下とトップチューブの間隔は25mm以上必要です。



A=股下とトップチューブの間隔

車種	Aの目安
マウンテンバイク	50～70mm
ロードバイク	25mm以下は危険



警告 もし自転車が適切なサイズで無い場合、自転車はコントロールを失い転倒する危険があります。

正しい乗車姿勢

- 正しい乗車姿勢が確保できるように、ハンドル位置とサドル位置を販売店で調整してもらってください。
- 必ず実際に乗って確認してください。
- 両足先が完全に地面につくこと。
- 上半身が少し前に傾き、ヒジが軽く曲がること。
- ペダルをこいだ時、ヒザがハンドルに当らず操縦ができること。
- 円滑にペダリングをしながら、ブレーキレバー、シフトレバー、ベルなどを安全に操作できること。

最大積載重量

- この自転車を設計する上で想定した重量は、カゴやキャリア（荷台）などの積載装置を使用した場合です。
- 荷物を積載する場合は想定した重量を守り、幅や長さの容量も最小限に抑え、確実に固定してください。
- ランプやリフレクターなどの保安装置（P5参照）が荷物で隠れないようにしてください。

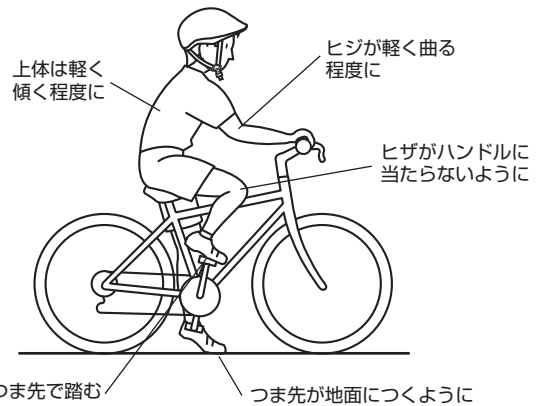


警告

超過した大きさや重量の荷物を積載すると、自転車の安全性が損なわれ転倒や事故を起す恐れがあります。

幼児用座席（チャイルドシート）

- この自転車には幼児用座席（チャイルドシート）の取り付けはできません。



正しい服装と装備

- チェーンやギヤクランクがむき出しの自転車に乗る場合は、ズボンの汚れやチェーンへの巻き込みを防止するために、裾の広いズボンの使用は中止し、必ずズボンの裾をズボンバンドで止めてください。
- サンダル、スリッパ、ゲタ、ハイヒールなどの履物はペダルをこいだ時に力が入りにくく、滑りやすく危険ですのでできるだけ避けてください。
- 安全を守るためにヘルメットを必ずかぶってください。
- サイクリングなどの時は、ペダリングのしやすいショートパンツで、ヘルメット、専用シューズ、手袋の着用をおすすめします。

ヘルメットは正しくかぶりましょう!



良い例



悪い例

悪いポイント
・おでこが出ている。
・ヒモがゆるい。



警告

自転車に乗る時は、いつもヘルメットを着用してください。その場合、正しくかぶりアゴヒモはしっかりと締めてください。

自転車のかんたんな点検

- 点検することで、整備不良を発見し事故を未然に防ぐこともできますし、自転車を長持ちさせて使用することができます。
- 必ず取扱説明書をよく読んで点検してください。
- できれば乗る前に必ず点検を行うことが理想ですが、月に一度は点検しましょう。
- わからないときは販売店に相談してください。



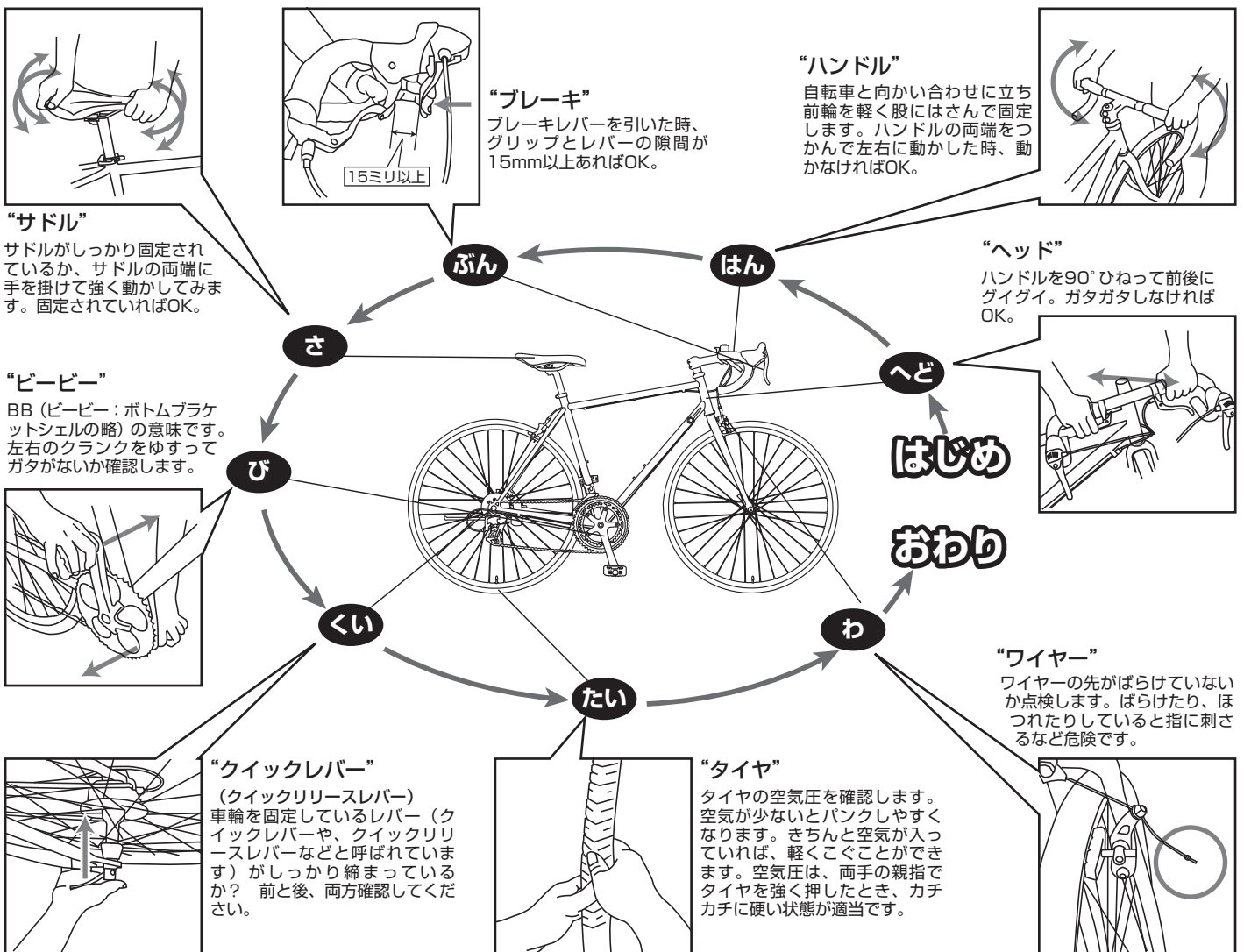
警告

危険を回避するために、乗る前に必ず点検してください。異常を発見したら使用しないで販売店にご相談ください。

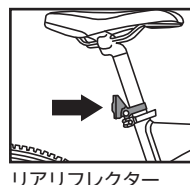
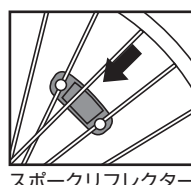
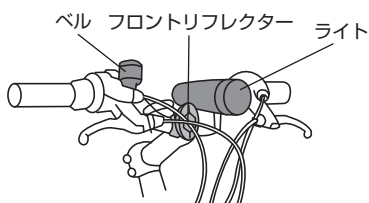
必ず乗車前に簡単点検をお願いします。点検の不足は人身事故につながる危険があります。

点検場所が『あいことば』になっていますので、『あいことば』に従って…
へど はん ぶん さ び くい たい わ

なれると
1分間で
できちゃうよ



保安装置の確認



- フロントリフレクター、リアリフレクター、スポークリフレクター、ベル、ライトなどが破損している場合は新品に交換してください。

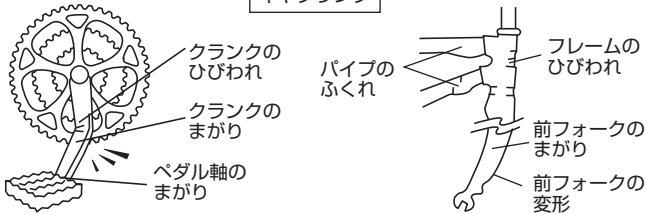
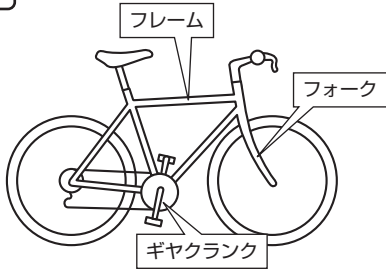
安全上の注意

あなたを守り、他人への危害や財産への損害、自転車の損傷を未然に防ぐために必ず守ってください。

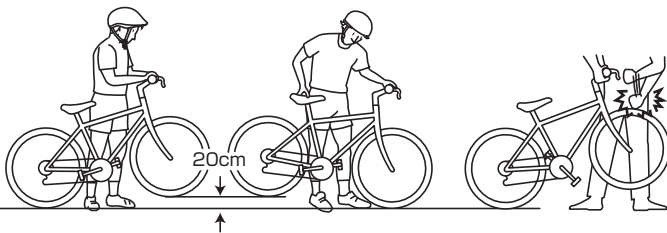
乗る前に必ず点検



フレームやフォーク、ペダルやギヤクランクなどの部品に異常があるときは乗らない。



自転車を20cmほど持ち上げて地面に落とし何か異常な音を聞いたら乗らない。自転車を持ち上げて車輪を上から強くたたいたとき、すれやがたがあると、走行中に外れて事故を起すおそれがあります。



異常を発見したり感じたら直ちに使用を中止して、販売店にご相談ください。

走り出す前の注意と確認



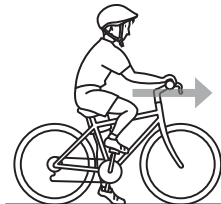
巻き込まれやすい服装、すべりやすい履き物、はだしなどで乗らないでください。
※丈の長いコートやスカートを着たり、長いマフラーや、ヒモの長いショルダーバッグなどを掛けて乗車すると、車輪やギヤクランクに巻き込まれ転倒するおそれがあります。



積載条件から外れた荷物は積まないでください。
※バランスを崩して転倒するおそれがあります。



改造や分解、突出物の装着はしないでください。
※修理や分解、部品の組み付けは販売店にて行ってください。



スタートはサドルに乗ってから走り出してください。
※地面を蹴ってサドルに飛び乗るとバランスを崩して転倒するおそれがあります。



スタンドを完全にはね上げていない状態で乗らないでください。
※カーブのときにスタンドが地面に接触して転倒するおそれがあります。



走る状況や場所の選択



凸凹の激しいところを走らないでください。
※歩道の段差や溝、山岳や河川などを走ると転倒するおそれがあります。



滑りやすいところでは乗らないでください。
※積雪や凍結した道、鉄板やぬかるみなどを走るとスリップし転倒するおそれがあります。



雨、風、雪がひどいときや、視野が悪いときは乗らないでください。
※バランスを崩し転倒や事故を招くおそれがあります。

こんな乗り方はしない



乱暴な乗り方はしないでください。
※飛び降りたり、ジャンプやアクロバット走行などは自転車の破損や、転倒、事故を招くおそれがあります。



むやみにスピードを出しすぎないでください。
※スピードの出しすぎはハンドル操作が難しくなり事故を招くおそれがあります。



車道の左側を走行しジグザグ運転はしないでください。
※事故を招くおそれがあります。



カーブではスピードを落とし、曲がる側のペダルは下げないでください。
※スリップしたり、ペダルが地面と接触し転倒するおそれがあります。



ハンドルから手を離さないでください。片手運転や手離し運転はしないでください。
※走行中に自転車がふらついて転倒するおそれがあります。



手やハンドルに荷物を引っかけたり、傘や釣りざおをフレームに差し込んだり、犬を引いて乗らないでください。
※荷物やヒモを巻き込み、バランスを崩して転倒するおそれがあります。



タバコを吸いながら、食べたり飲んだりしながら乗らないでください。
※片手運転と前方不注意により事故を起すおそれがあります。



走りながら携帯電話を操作したり、ヘッドホンやイヤホンを使用しながら乗らないでください。
※片手運転と前方不注意により事故を起すおそれがあります。



ギヤチェンジ（ギヤの切替操作）は一度に2段以上しないでください。
※チェンジギヤ装置が故障したり、ペダルの回転が止まり転倒するおそれがあります。



走行目的以外に使わないでください。
※踏み台など走行目的以外の使用は転倒のおそれがあります。

ブレーキをかけるとき



乗車前に必ず前後のブレーキが効くことを確認してください。

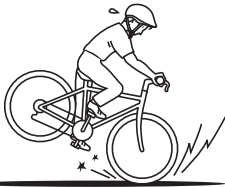


いつでも両手のブレーキレバーが握れるようにして乗ってください。





強制 急ブレーキをかけないでいよう
に、いつも前方に注意してスピー
ドはひかえめにしてください。



強制 ブレーキは先に後ブレーキをかけ
てから次に前ブレーキをかけてく
ださい。片方だけかけるとスリッ
プして危険です。



強制 ブレーキは片方でも不具合なときは自転車を使用せず、必ず
前後ブレーキが正常な状態で使用してください。



強制 雨天時はブレーキがききにくく制動距離が長くなりますので、
ゆっくり走行してください。



警告 長い下り坂での連続したブレーキの使用は効きづらくなる場
合がありますので、前後のブレーキを使って安全な速度で下
ることが重要です。

交通ルールを守りましょう (注)



警告 自転車で公道を走る場合は、事故を防ぐために
交通ルールとマナーを必ず守ってください。

交通事故を防ぐために安全を確認



注意 停車中の自動車の横を走ると
きは開くドアや人の飛び出
しに注意してください。
※事故を招くおそれがあり
ます。



注意 自動車の死角に入らないでください。交差点
の近くでは左折自動車に巻き込まれないよう
に注意してください。
※事故を招くおそれがあります。



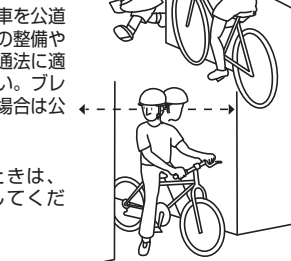
禁止 自動車の後に続いて走ったり、自動車が渋滞
しているときに前に出ないでください。
※事故を招くおそれがあります。



注意 学校や公園の近くでは子供の飛び出
しに注意してください。
※事故を招くおそれがあります。



注意 レースに対応した特殊な自転車を公道
で使用する場合は、ブレーキの整備や
ハンドル幅の調整など道路交通法に適
合した状態で使用してください。ブレ
ーキが前後共に着いていない場合は公
道を走行しないでください。



強制 狭い道から広い道に出るときは、
一時停止して安全を確認してくだ
さい。

交通ルールと標識の厳守



注意 道路交通法上自転車は軽車両と位置づけられていま
すので、歩道と車道の区別ある場所では車道通行が原則です。
※中学生になったら原則として「車道通行」です。



注意 やむを得ず歩道を走るときは車道側を走り、歩行者は優先で
す。歩行者の迷惑となる場合は降りて歩いてください。
※歩道ではむやみにベルやブザーを鳴らさないでください。



注意 駐輪禁止場所に駐輪しないで
ください。
※歩行者や他の交通機関の邪
魔になります。



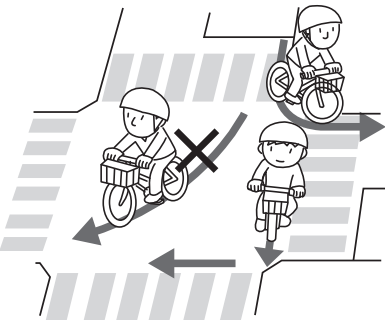
注意 右折、左折、停止するときは
早目に合図してください。
※後方と前方の安全を確めて
合図してください。



注意 道路を横断するときは自転車横断帯を通り、ない場合は横
断歩道を自転車を押しながらわたってください。
※自転車横断帯の表示がある場合はそこを通行しなければ
なりません。



注意 安全を確認し交差点をまがっ
てください。
※後方と前方の安全を確めて
合図してください。



信号のない交差点—左折は小
回り、右折は向こう側までま
っすぐに進んで大回りしてく
ださい。

信号のある交差点—左折は正面信号が青のときに小回り。右折は正面信号が青
のときに向こう側まで進み停止し、右折方向の信号が青になったら直進してく
ださい。



注意 交通標識をおぼえて、それに従い安全に走行してください。

危険な運転に対する道路交通法の罰則



禁止 酒を飲んだときや疲れが激しいときは乗らないでください。
※事故を起こすおそれがあります。飲酒運転は5年以下の懲
役または5万円以下の罰金です。



禁止 並進可標識のある場所以外は横に2人並んで走る並走はしな
いでください。
※対向車や他の交通機関の邪魔になります。並走は2万円以
下の罰金または料料です。



禁止 2人乗りはしないでください。
※操縦が不安定になり転倒や
落車のおそれがあります。
2人乗りは2万円以下の罰
金または料料です。



禁止 夜間やトンネルなどの暗い場所で無灯火で走行しないでく
ださい。
※事故を招くおそれがあります。夜間の無灯火運転は5万円
以下の罰金です。

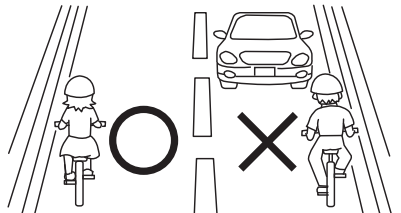


禁止 信号に従ってください。
※信号無視は事故を招くおそれがあります。信号無視は3ヶ
月以下の懲役または5万円以下の罰金です。



禁止 道路では左側を1列で走行し、右側は絶対に走行しないで
ください。

※右側通行は事故を招くお
それがあります。右側通行は
3年以下の懲役または5万
円以下の罰金です。



右側通行は禁止!

自転車が通行可能な路側帯は、道路の左側部分に設けられ
た路側帯のみ通行してください。



禁止 交通標識に必ず従ってください。
※標識の無視は事故を招くおそれがあります。一時停止無
視は3年以下の懲役または5万円以下の罰金です。

おぼえておきたい交通標識

まずこれだけはおぼえましょう。



一時停止



自転車通行止め



通行止め



横断歩道



自転車および歩行者専用



自転車専用



自転車横断帯

(注) 交通ルールについては「みんなの交通ルール」警視庁(平成22年)などから出典しています。

オフロード（未舗装路）でのルール



警告

マウンテンバイクなどでオフロードを走る場合は、自然を守り環境保全につとめ山道や公園のルールに従ってください。

- 乗り入れが禁止されている林道や地域には絶対に入らず、私有地には無断で立ち入らないでください。
- 山道ですれ違う場合の基本ルールは登り優先です。バイクは登り下りの別なく走行者を優先させるのがルールで、出会ったなら停止してバイクを降りて道をゆずってください。
- バイクに乗ったまま走行者とすれ違ったり、後方からいきなり抜き去ったりすると事故の原因になります。
- 走行者や動物との接触や衝突をさけるために、スピードは控えめに前方に注意して走ってください。
- 動物に遭遇した場合は、動物との間に十分に距離を取り相手を驚かせないでください。

- 可能な限り山道を破損しないように注意して走ってください。（例：急ブレーキで表土をえぐらない）山道に残ったわだちの痕跡は雨水の侵食で山道の破壊につながるおそれがあります。
- 道になっている部分を走り、勝手に道を造るなど環境や生態の破壊をしないでください。
- 自分で持ち込んだものはすべて自分で持ち帰り、ゴミは絶対に残さないでください。
- 煙草の吸いながらや、携帯コンロなどの扱いは注意し山火事などを起さないでください。
- 山の中ではすべて自分で、自身とバイクの面倒をみなければなりません。事前に地図やガイドブックなどで調査し、十分な装備を準備し、自分の技量と体力に見合った計画を立案してください。
- オフロードの走行は特別な技術と体力が必要です。簡単なコースで学び少しずつ難しいコースに移動し、自分の技術と体力に見合った走行を実施してください。
- 転落などの事故に備え、可能な限り単独行動は避け、他者と一緒でも行動中はお互いの連絡を密にしてください。

点検と調整（各部のしくみ）



警告

安全にご乗車いただくために、乗る前の点検と調整は必ず実施してください。点検や整備の不足は人身事故につながります。

ご不明な点がありましたらお買い上げいただいた販売店にご相談ください。

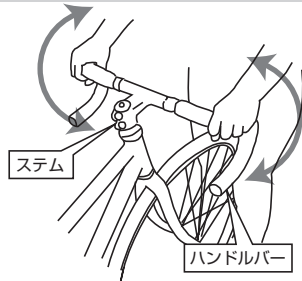
ハンドル

ハンドルはハンドルバーとステムの2つの部品から構成されています。



警告

ハンドルの固定が不十分のまま使用すると、走行中に動いたり抜けたりして事故を招くおそれがあります。



禁止

ハンドルを最も高い位置にした場合でも、ステムの限界標識が見える状態で乗車してはいけません。限界標識が隠れるまでフレームに差し込んでください。



警告

グリップの固定が不十分のまま使用すると、走行中に動いたり抜けたりして事故を招くおそれがあります。

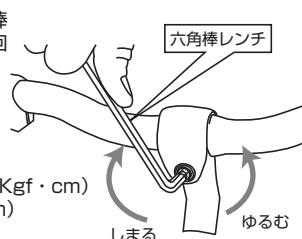


●ハンドルバーとステムの調整

ステムクランプ部分のボルトに合う六角棒レンチやスパナで、ボルトを時計回りで回せばハンドルバーは固定されます。反時計回りで回せば固定がゆるみます。

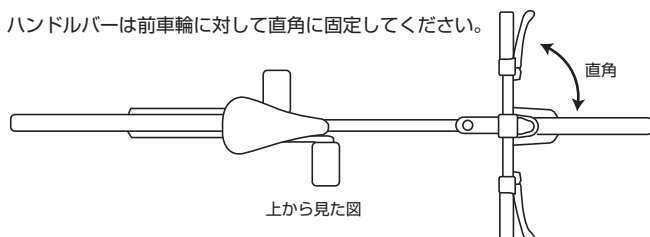
参考データ

- * 締付トルク：1本ボルトで17～20Nm (170～200Kgf・cm)
- 2本ボルトで11～13Nm (110～130Kgf・cm)
- 4ボルトで5～7Nm (50～70Kgf・cm)



●ハンドルバーの正しい方向

ハンドルバーは前車輪に対して直角に固定してください。



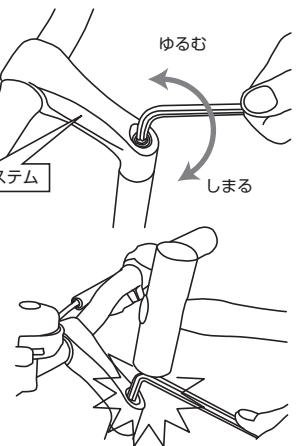
●クイル式（引き上げ棒タイプ）ステムの調整

①ステム引き上げボルトに合う六角棒レンチやスパナで、ボルトを時計回りで回せばステムは固定されます。

②引き上げボルトを反時計回りで回しボルトの頭が数ミリ出たら、ハンマーで軽くたたくと固定がゆるみステムは上下に調節できます。

③直接ハンマーでボルトの頭をたたく場合は、引き上げボルトの頭に木片などを当てるとキズの防止になります。

④高さを調節した後、引き上げボルトを時計回りで回せばステムは完全に固定できます。



注意

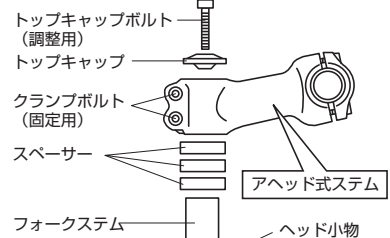
ステムの限界標識が見えないことを確認してください。

参考データ

- * 締付けトルク：18～20Nm (180～200Kgf・cm)

●アヘッド式ステムの調整

①アヘッド式ステムの構造は、上部のアンカーボルトでヘッド小物の玉当り調整を行い、ステムのクランプボルトでステムをフォークステムに固定します。



②クランプボルト2本を交互に時計回りに回せばしまりステムは固定され、反時計回りで回せば固定がゆるみます。

参考データ

- * 締付トルク：7～8Nm (70～80Kgf・cm) 4mm六角レンチ使用時（注意）ボルト径によりトルク数値は変わります。

③トップキャップボルトを強くしめすぎるとヘッドの回転が重くなり、トップキャップやアンカーナットが破損するおそれがありますので、しめすぎないでください。

参考データ

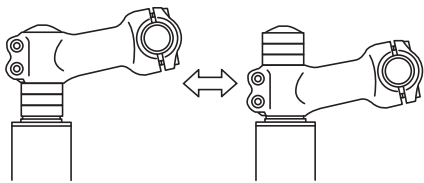
- * 締付トルク：2～3Nm (20～30Kgf・cm)



注意

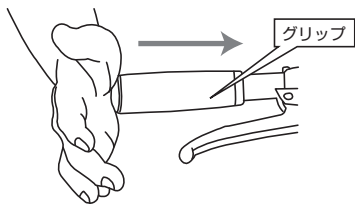
トップキャップボルトは固定用ではありません。

- ④ステムの高さの調整は、スペーサーの位置を入れ替えることで調整できますが、調整幅は大きくありません。

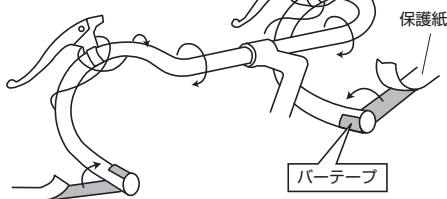


●グリップやテープの調整

- ①グリップが動いたり抜けることがあります。グリップの劣化が原因の場合が多いので、新品に交換する場合はハンドルバーやグリップ内部の水や油をふき取ってから再度組み付けます。油をつけて入れることは絶対にやめてください。



- ②ハンドルバーテープを交換する場合は、ハンドルバーの末端から外側から内側に向けて巻き、テープ幅の1/3が重なるようにします。最後にハンドルバーの末端にエンドプラグを差し込んでテープを固定し、ハンドルバーの中央部はほつれを防ぐためにビニールテープなどで止めてください。



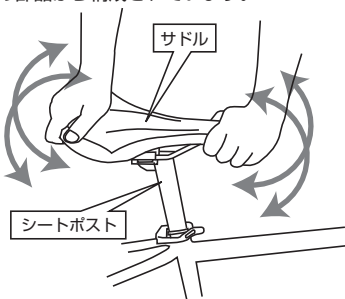
サドル

サドルはサドルとシートポストの2つの部品から構成されています。



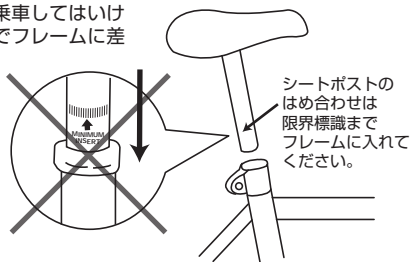
警告

サドルの固定が不十分のまま使用すると、走行中に動いたり外れたりして事故を招くおそれがあります。

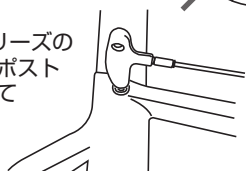


禁止

サドルを最も高くした場合でも、シートポストの限界標識が見える状態で乗車してはいけません。限界標識が隠れるまでフレームに差し込んでください。



*ARシリーズのシートポストについて



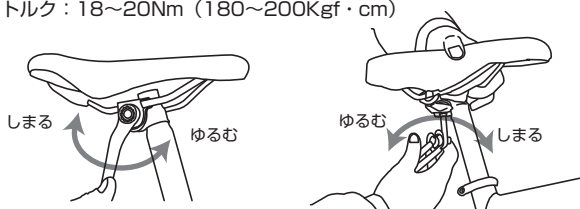
左右のボルトを6-8Nmで均等に固定します。余分な透明のシールははさみで切ります。

●サドルとシートポストの調整

シートポストのサドル取り付けボルトを六角棒レンチで（ナットの場合はスパナを使用）時計回りに回せばしまりサドルはシートポストに固定されます。反対時計回りに回せばゆるみ、サドルの前後位置や角度の調節ができます。

参考データ

*締め付けトルク：18~20Nm (180~200Kgf·cm)



●サドルの高さの調整

サドルの高さは、シートポストをフレームに固定しているシートピンをしめたりゆるめたりして調整します。

- ①六角頭のボルトの場合は、スパナでボルトを時計回りに回せばシートポストは固定され、反対時計回りに回せば固定がゆるみます。
- ②六角穴式ボルトの場合は、六角レンチでボルトを時計回りに回せばシートポストは固定され、反対時計回りに回せば固定がゆるみます。



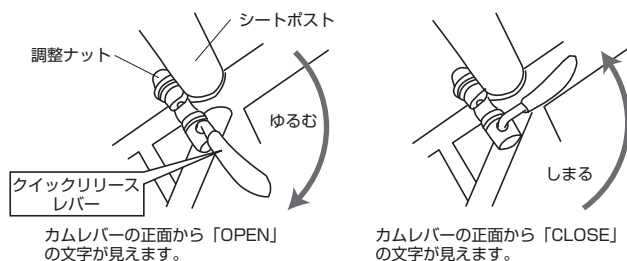
参考データ

*締付トルク：8~9Nm (80~90Kgf·cm) 5mm

六角レンチ使用時

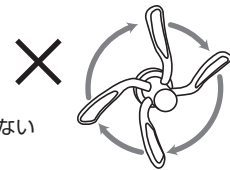
(注意) ボルト径によりトルク数値は変わります。

- ③クイックリリースレバーの場合は、カムレバーを開閉してしめたりゆるめたりして調整します。カムレバーをゆるむ方向に開いて、レバーに刻印されている「OPEN」の文字が見えればシートポストの固定がゆるみます。カムレバーをしめる方向に閉じて、レバーに刻印されている「CLOSE」の文字が見えればシートポストは固定されます。カムレバーを閉じるときは、手のひらが多少痛くなる程度に強い力で押し付けるのが適当です。カムレバーの閉じる力がゆるかったり、逆に固くて閉じられない場合は、反対側の調整ナットを回して調整してください。



注意

クイックリリースレバーはカムレバーを回転させてしめ付けるものではありません。

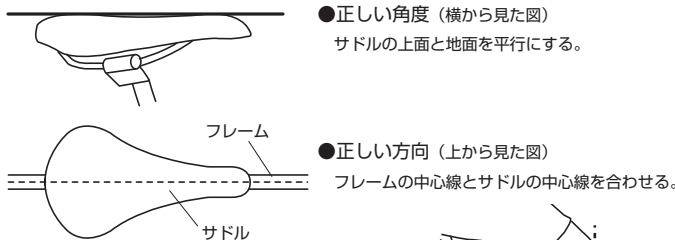


注意

シートポストの限界標識が見えないことを確認してください。

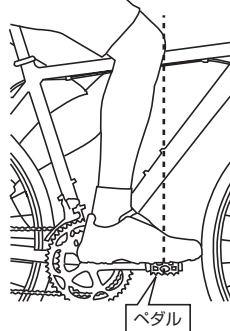
●サドルの正しい方向と角度

サドルの中心線をフレームの中心線に合わせ、サドルの上面が水平になるように調整してください。



●サドルの前後位置

基準となるサドルの前後位置は、ペダルを図のように地面に平行した状態で、ペダルの中心からの垂線がひざの皿の下側と交わる位置が標準です。用途・経験などにより個人差があります。



クランク

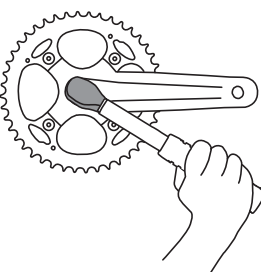


警告

クランクのフィキシングボルトの締め付けをご確認ください。ボルトは定期的にトルク管理を行ってください。管理を怠るとクランクが脱落するかもしくは破損する恐れがあります。

参考データ

*締付トルク：35~50Nm (305~509Kgf·cm)



ボトムブラケット

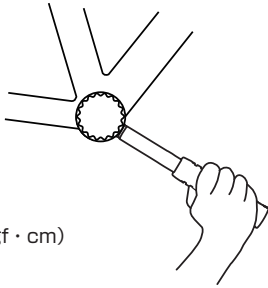


警告

ボトムブラケットの締め付けをご確認ください。ボトムブラケットにガタつきを感じる場合はトルクチェック、もしくは交換を行ってください。管理を怠るとフレームが破損する恐れがあります。

参考データ

* 締付トルク：50～70Nm (500～700Kgf・cm)



ブレーキ

ブレーキはブレーキ本体、レバー、ワイヤーの3つの部品から構成されています。



注意

ブレーキが十分に効かない状態で走行すると、止まらずに衝突し事故を招くおそれがあります。



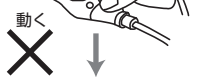
警告

レバーを操作した場合にレバーがハンドルバーに接近し過ぎるとブレーキが効かないおそれがあります。



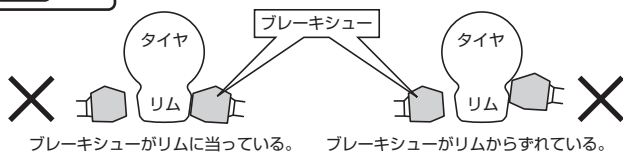
警告

レバーの固定が不十分で動いてしまう場合、ブレーキ操作ができないおそれがあります。



警告

ブレーキシューがリムに正しく当たっていない場合、ブレーキの性能が低下するおそれがあります。

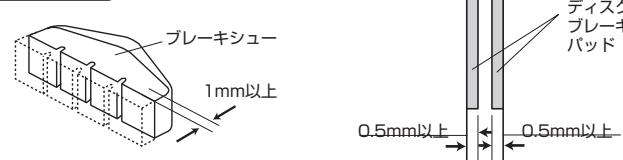


ブレーキシューがリムに当たっている。 ブレーキシューがリムからずれている。



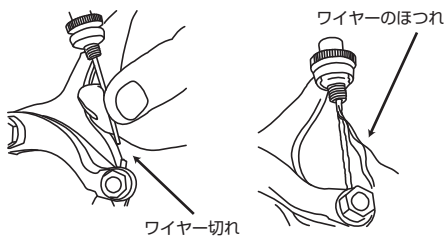
警告

ブレーキシューやディスクブレーキのパッドが減っていたり、小石などの異物が付着していると、ブレーキ性能が低下するおそれがあります。



警告

ワイヤーのさび、ほつれ、折れなどはワイヤーの切断を招きブレーキ操作ができないおそれがあります。

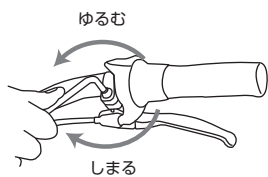


●ブレーキレバーの調整

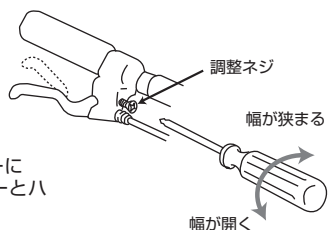
①ブレーキレバーのクランプ部のボルトを六角レンチで時計回りで回せば締め固定され、反時計回りで回せばゆるみレバーの位置が調整できます。

参考データ

* 締付トルク：5～7Nm (50～70Kgf・cm)



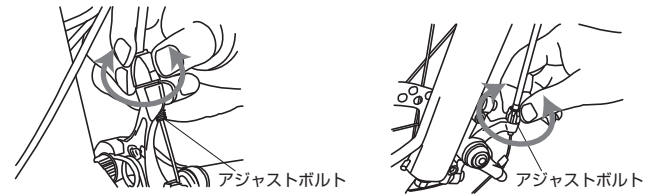
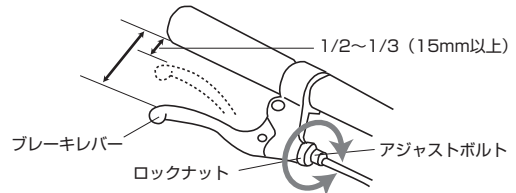
②ブレーキレバーに調整ネジが付いているレバーは、手のサイズに合わせてレバーの開き幅が調整できます。調整ネジを時計回りに回すとレバーはハンドルバーに接近し、反時計回りに回せばレバーとハンドルの幅は開きます。



③レバーとハンドルバーの間隔が開放時の1/2～1/3 (最低15mm) になるまでにブレーキが効かなければ調整が必要です。ブレーキワイヤーが伸びてレバーの遊びが大ききものは、レバーやブレーキ本体のアジャストボルトで調整してください。アジャストボルトを反時計回りに回せばボルトは外側に出てワイヤーの伸びを吸収します。調整後はロックナットを締め付けて、ボルトが動かないように固定してください。

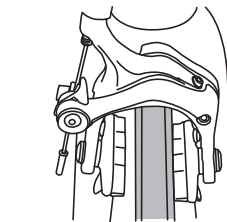
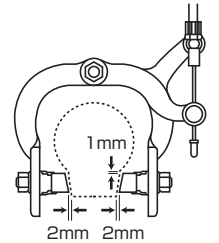
参考データ

* 締付トルク：5～7Nm (50～70Kgf・cm)

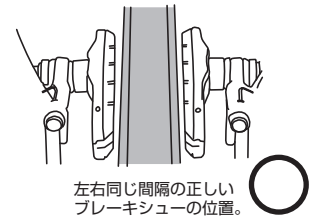


●ブレーキ本体の調整

①ブレーキシューとリムの間隔は左右平均して2mmくらいが適当で、左右共に同じ間隔を保ち、リムからはみ出さない位置を保ってください。

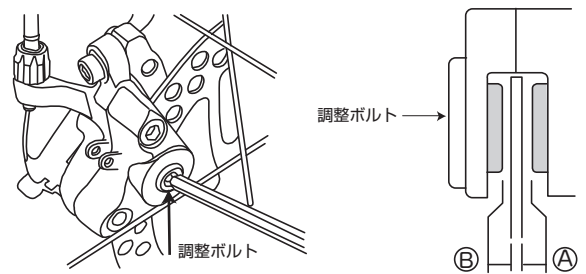


片側がリムに接触した不適正なブレーキシュー位置。



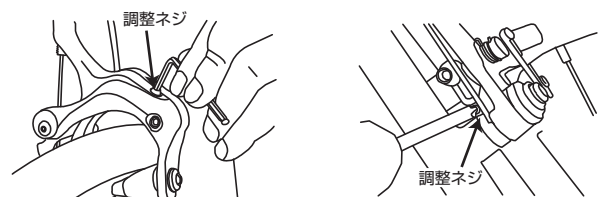
左右同じ間隔の正しいブレーキシューの位置。

②ディスクブレーキのローターとパッドとの間隔の調整はブレーキ本体の裏側から調整ボルトを回す方法が大部分ですが、機種によって異なります。ブレーキの取扱説明書をご覧ください。販売店にご相談ください。



①と②のローターとパッドのクリアランスはそれぞれ0.2～0.4mmの間隔を保ってください。

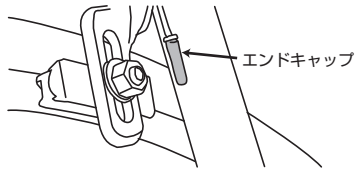
③ブレーキの機種によっては、左右のブレーキシューの位置を微調整する調整ネジが付いています。調整ネジを回すことによって左右のブレーキシューの片効きを修正できます。調整ネジが付属していないブレーキの片効き修正については販売店にご相談ください。



④ブレーキシューやディスクブレーキパッドの交換については販売店にご相談ください。

●ブレーキワイヤーの調整

ワイヤーの先端がほつれるとけがをするおそれがありますので必ずエンドキャップが装着されていることをご確認ください。ブレーキワイヤーの交換は販売店にご相談ください。



強制

ブレーキワイヤーは消耗品です。異常がなくても2年に一度は交換してください。

●ディスクブレーキの調整

ディスクブレーキはメカニカルタイプ（ワイヤー引き）とハイドロリックタイプ（油圧）に大別されますが、点検と調整については専用の説明書をごらんになるか、販売店にご相談ください。

- ①ハイドロリックタイプの場合はオイルもれがないか確認してください。
- ②前後のブレーキが正しく作動しているか確認してください。
- ③ディスクローターに油が付着している場合は拭き取り、変形していたら交換が必要です。



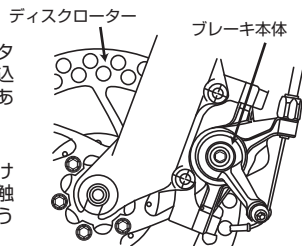
注意

回転中のディスクローターに触れると指を巻き込まれけがを負う危険があります。



注意

連続してブレーキをかけたディスクローターに触れると熱でやけどを負う危険があります。



警告

ブレーキ各部はこの取扱説明書に記載されているところ以外は絶対に自分で勝手に調整しないでください。



警告

ブレーキは安全を左右する重要な部品ですので、異常を見つけたら直ちに販売店にご相談ください。

ディレラー（外装変速機）

ディレラーはフロントディレラー、リアディレラー、シフトレバー、ワイヤーの4つの部品から構成されています。



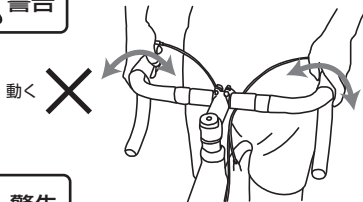
注意

乗車する前にディレラー（変速機）が正常に作動しているか確認して下さい。ギヤクランクを進行方向に回転させながらシフトレバーを操作したとき、円滑にシフト（変速）しますか？



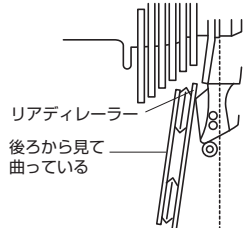
警告

シフトレバーの固定が不十分で動く場合、シフト操作ができないおそれがあります。



警告

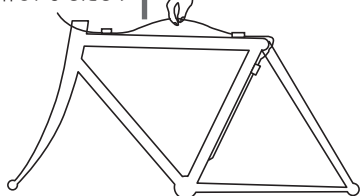
リア（後ろ）ディレラーは車体から飛び出しており、乗車や駐輪の際、あるいは自転車を倒してリアディレラーを曲げた場合、シフト操作ができないばかりか後輪にディレラーを巻き込んだり破断して事故を起すおそれがあります。



警告

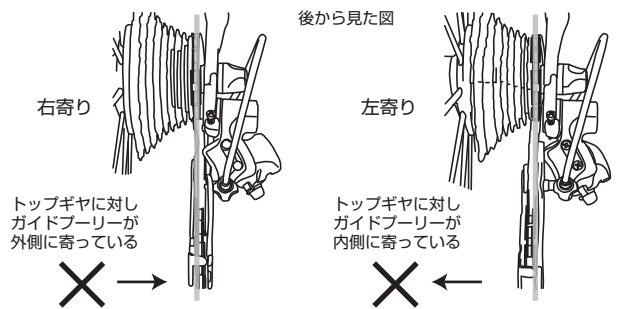
ワイヤーの伸びによるたるみ

ワイヤーがさびるとシフト操作が重くなり、ワイヤーが伸びるとシフト操作が円滑にできないおそれがあります。劣化で切断した場合は、シフト操作が不可能になります。



警告

フリーホイール（後ギヤ）やギヤクランク（前ギヤ）に対してディレラーの位置が正しくないと、チェーンが外側に外れたり、逆に内側に外れたり、チェーンが干渉するような異常が発生したりして、円滑なシフト操作ができないばかりか最悪の場合、フレームやリアディレラーの破損につながるおそれがあります。

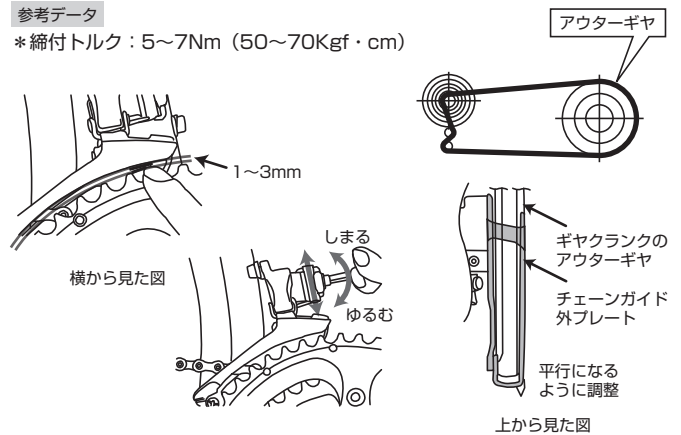


●フロントディレラーの調整

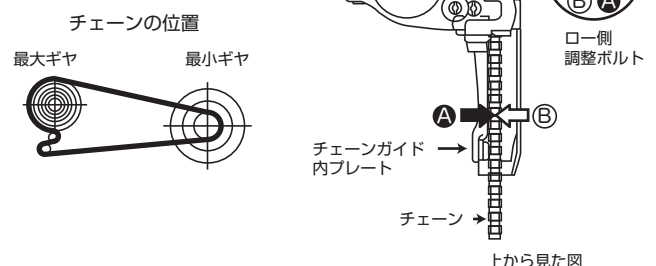
- ①取付け位置の調整：側面から見て、ギヤクランク（前ギヤ）のアウトーギヤ（最大ギヤ）とチェーンガイドの外プレートとのすき間が1~3mmで平行になるように、また真上から見てチェーンガイド外プレートの平らな部分がアウトーギヤと平行になるように調整してください。フロントディレラーの取付けボルトかナットを時計回りに回せば固定され、反時計回りに回せばゆるみフロントディレラーの位置が調整できます。

参考データ

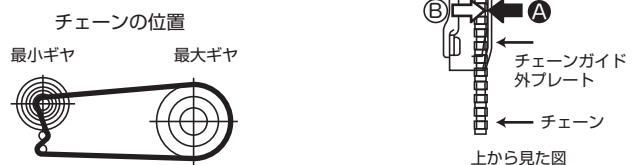
* 締付トルク：5~7Nm（50~70Kg \cdot cm）



- ②ロー側（ギヤクランクの最小ギヤ側）の調整：チェーンがギヤクランクのインナーギヤ（最小ギヤ）とフリーホイールのローギヤ（最大ギヤ）にかかっているとき、チェーンガイド内プレートとチェーンのすき間が0~0.5mmにセットしてください。フロントディレラーのロー側調整ボルトを回転させればチェーンガイド内プレートの位置が調整できます。



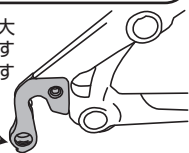
- ③トップ側（ギヤクランクの最大ギヤ側）の調整：チェーンがギヤクランクのアウトーギヤ（最大ギヤ）とフリーホイールのトップギヤ（最小ギヤ）にかかっているとき、チェーンガイドの外プレートとチェーンのすき間は0~0.5mmにセットしてください。フロントディレラーのトップ側調整ボルトを回転させればチェーンガイドの外プレートの位置が調整できます。



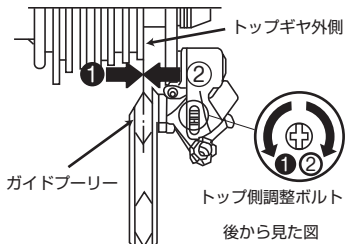
●リアディレクターの調整

①曲りの修正：リアディレクターが曲っている場合、大部分はリプレisableハンガーの交換で修正できますが、リアエンドやディレクター自体の損傷もありますので、販売店にご相談ください。

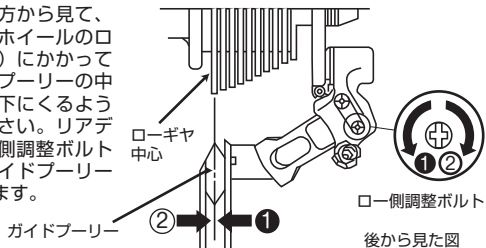
衝撃からリアディレクターやフレームを守るリプレisableハンガー



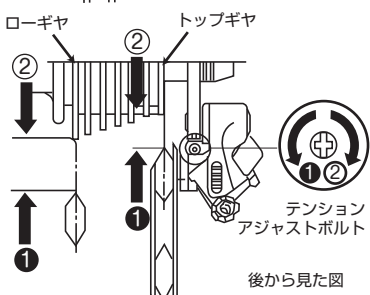
②トップ側の調整：後方から見て、チェーンがフリーホイールのトップギヤ（最小ギヤ）にかかっているとき、ガイドプリーリの中心がトップギヤの外側の線にくるようにセットしてください。リアディレクターのトップ側調整ボルトを回転させればガイドプリーリの位置が調整できます。



③ロー側の調整：後方から見て、チェーンがフリーホイールのローギヤ（最大ギヤ）にかかっているとき、ガイドプリーリの中心がローギヤの真下にくるようにセットしてください。リアディレクターのロー側調整ボルトを回転させればガイドプリーリの位置が調整できます。



④テンションアジャストボルトの調整：チェーンがギヤクラウンのインナーギヤ（最小ギヤ）とフリーホイールのローギヤ（最大ギヤ）にかかっているとき、ギヤクラウンを逆回転させ、チェーンつまりしない位置までガイドプリーリがローギヤに近づくようにテンションボルトを回転させ調整します。次に、チェーンをフリーホイールのトップギヤ（最小ギヤ）に移動させ、同様に調整してください。

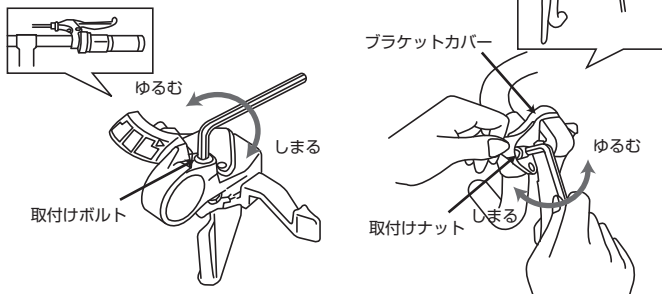


●シフトレバーの調整

シフトレバーのクランプ部のボルトかナットを時計回りで回せば固定され、反時計回りに回せばゆるみレバーの位置が調整できます。

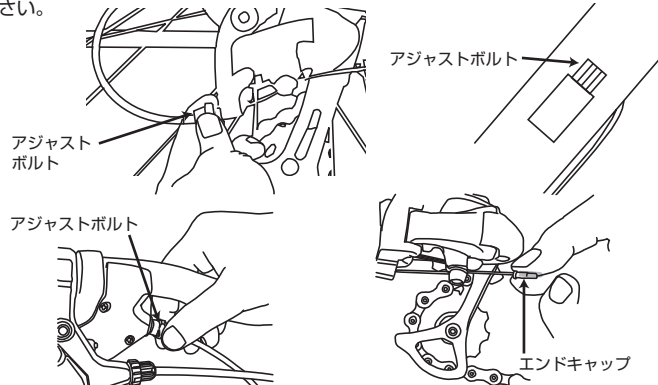
参考データ

*締付トルク：5～7Nm（50～70Kgf・cm）



●ワイヤーの調整

ワイヤーが伸びてシフト操作が円滑にできない場合、シフトレバーやディレクターに付属しているアジャストボルトで調整してください。アジャストボルトを反時計回りに回せばボルトは外側に出てワイヤーの伸びを吸収します。ワイヤーの先端がはつれるとけがのおそれがありますので、必ずエンドキャップが装着されていることをご確認ください。ワイヤーの交換は販売店にご相談ください。



強制

ワイヤーは消耗品です。異常がなくても2年に一度は交換してください。



警告

ディレクター各部はこの取扱説明書に記載されているところ以外は絶対自分で調整しないでください。



警告

ディレクターは繊細で調整には経験が必要ですので、異常を見つけたら直ちに販売店にご相談ください。



警告

ディレクターはいろいろなタイプが使用されていますので、点検と調整については専用の説明書をごらんになるか、販売店にご相談ください。

チェーン



警告

さび付いて固着している場合、円滑にペダル回転できずギヤクラウンやフリーホイールの歯（後ろのギヤ歯）を損傷するおそれがあります。



警告

チェーンは絶えず力がかかるために摩耗して伸びますが、伸び過ぎるとギヤクラウンやフリーホイールの歯を損傷するおそれがあります。



警告

ペダルを回転させると、空回りしたり、歯飛びをしたり、異音がしたり、外れやすくなった場合は異常の状態ですので使用は中止してください。

●チェーンの調整

チェーンは油切れがなく、ペダルを回転したときに滑らかに動くように調整して下さい。異常を発見したら直ちに販売店にご相談ください。



強制

チェーンは消耗品です。5000km毎の交換が目安ですので、異常が無くとも期限になったら交換してください。



警告

チェーンの外見は同じように見えてもいろいろなサイズがあります。サイズを間違えると円滑にペダルを回転できず、シフト（変速）にも支障が起りますので、交換する場合は販売店にご相談ください。

タイヤ&チューブ

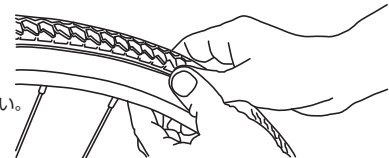
ホイール（車輪）はタイヤ、チューブ、リム、スポーク、ハブからできています。タイヤの中にチューブが入っており、空気を入れて乗車します。



警告

空気圧が低すぎると、地面との接地面積が拡大するために車輪の回転が重くなり、タイヤやリムを損傷させ、パンクの原因になります。

指でタイヤを押して空気圧を調べ、亀裂や摩耗がないか確認してください。



警告

タイヤが摩耗し溝が消えたり、内部の繊維が露出したり、亀裂が入ったりしている場合は、寿命を迎えているので使用は中止してください。



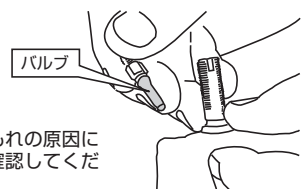
警告

タイヤに異物が付着している場合はパンクの原因になります。



警告

チューブのバルブの劣化やゆるみも空気もれの原因になります。空気もれについてはバルブも確認してください。



●タイヤチューブの調整

①適正な空気圧：タイヤの側面に表示してある空気圧に合わせ空気を補充してください。空気圧の簡易測定法は②をご参照ください。

(タイヤ空気圧の表示例と換算率)

Kpa	Kgf/cm ² (気圧)	PSI
690	6.9	100

$$1\text{Kpa}=0.01\text{Kgf/cm}^2=0.145\text{PSI}$$

ポンプの空気圧ゲージなどで確認してください。(この頁の④参照)

(タイヤ空気圧の目安)

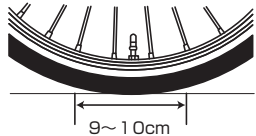
タイヤサイズ	Kgf/cm ² (気圧)	PSI
700×23C	6.3~6.9	90~100
700×35C	4.5~5.2	65~75
26×1.75	3.4~4.2	50~60
26×1.95	2.8~3.4	40~50
26×2.125	2.0~2.4	30~35



強制

空気は時間の経過に伴い抜けますので、2週間に1度は十分に補充してください。

②空気圧の簡易測定：自転りに乗車し、自転りに体重がかかった状態で、接地面の長さが9~10cmくらいが適当です。



接地面を参考に空気圧を設定したならば、タイヤの側面を指先で摘みその感覚を確かめて記憶し、次回から指先の感覚で空気圧の状態が確認できます。



空気圧の感覚を記憶できれば次回に活用できます。

バルブの種類と空気の入れ方

形式	バルブ	口金	空気の入れかた
ダンロップ (英式/EV)			<ol style="list-style-type: none"> ①キャップを外します。 ②コアの穴にポンプの口金を取り付けます。 ③空気を入れます。 ④キャップを取り付けます。
シューレーダー (米式/AV)			<ol style="list-style-type: none"> ①キャップを外します。 ②バルブにポンプの口金を押し込みます。 ③レバーを閉じて口金を固定します。 ④空気を入れます。 ⑤キャップを取り付けます。
プレスタ (仏式/FV)			<ol style="list-style-type: none"> ①キャップを外します。 ②コアの引き上げネジを2~3回ゆるめ、コアの先端を軽く押し空気が抜けることを確認します。 ③バルブにポンプの口金を押し込みます。 ④レバーを閉じて口金を固定します。 ⑤空気を入れます。 ⑥口金を外し、コア引き上げネジをしめます。 ⑦キャップを取り付けます。

リム

ホイール(車輪)はタイヤ、チューブ、リム、スポーク、ハブからできています。リムはタイヤ、チューブをはめるための金属の枠です。



警告

衝撃で変形し、へこみや曲り、振れなどがある場合は、車輪の回転が重くなり、走行中に故障を起すおそれがあります。



警告

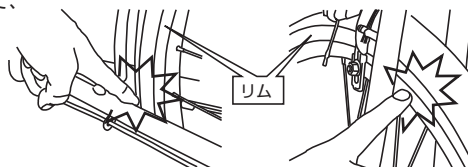
リムの側面がブレーキの線り返しの制動で摩擦していたり、石などの接触でキズが付いている場合はブレーキの性能を低下させるおそれがあります。



警告

車輪の固定が不十分でガタガタしたり動いたり、リムが大きく変形して、タイヤが、

フレーム、フォーク、フェンダーなどと接触していると、車輪の回転が重くなりタイヤを損傷させる原因になります。



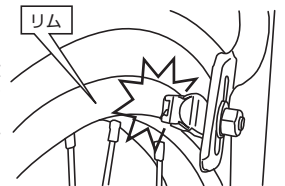
警告

スポーク孔の周辺にクラックの発生があると故障を起すおそれがあります。



警告

ブレーキの異常やリムが大きく変形してリムがブレーキシューと接触する場合、車輪の回転が重くなり異音発生の原因となります。



●リムの調整

リムに異常を見つけたら直ちに使用を中止して、販売店にご相談ください。



注意

リムは外見上は同じように見えてもいろいろなサイズがあります。サイズを間違えるとタイヤに合わなくなりますので、交換する場合は販売店にご相談ください。



注意

ポンプの口金は製造メーカーによって異なりますので、ポンプの取扱説明書をご覧ください。販売店にご相談ください。

④空気圧ゲージ：仏式バルブと米式バルブは、専用の空気圧ゲージで正確に空気圧を測定することができますので販売店にご相談ください。英式バルブは専用の空気圧ゲージがありませんので簡易測定の方法で判断してください。

⑤耐久性：タイヤの摩耗、劣化による亀裂、衝撃による深いキズなどを発見したら交換してください。

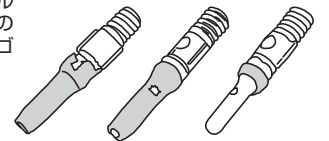


強制

タイヤは自転車の部分の中で一番の消耗品です。タイヤの溝や接地部分の模様が無くなる前に交換してください。

⑥バルブの点検：短期間で空気が簡単に抜けてしまう場合、チューブではなくバルブに問題があるかもしれません。仏式バルブの場合はコアの引上げネジをしっかりとめてください。英式バルブはコアの虫ゴムの劣化が空気抜けの原因になりますので、その場合は虫ゴムを交換してください。

虫ゴムが劣化した英式バルブのコア。



注意

タイヤの外見は同じように見えてもいろいろなサイズがあります。サイズを間違えるとリムやチューブに合わなくなりますので、交換する場合は販売店にご相談ください。

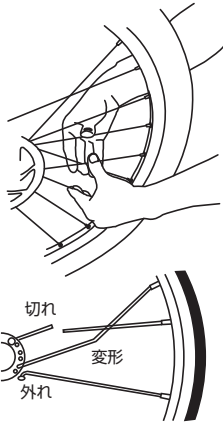
スポーク

スポークはホイール（車輪）の一部で、針金状のものです。



警告

スポークを手でつかんで簡単にゆるむようであればスポークの張りのゆるみが考えられ、そのまま走行を続けると故障の原因になります。



警告

切れたり、ハブやリムから外れたり、変形したまま走行を続けると、車輪がゆがみ故障や事故の原因になります。



警告

わずか1本のトラブルでも、そのまま走り続けると他のスポークに大きな負担がかかり、全体のスポークの寿命が短くなります。

●スポークの調整

破損したりゆるんだスポークを見つけたら直ちに使用を中止し、販売店にご相談ください。



注意

スポークは一見同じように見えますが、長さや太さにいろいろなサイズがあります。サイズを間違えるとリムやハブに合わなくなり、交換する場合は販売店にご相談ください。



注意

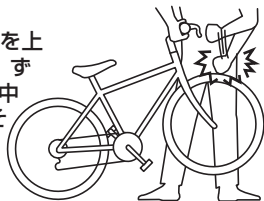
1本の破損でも、できれば全部のスポークの交換をおすすめします。

ハブ



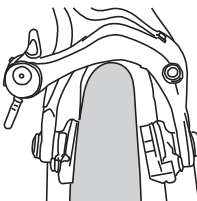
警告

自転車を持ち上げて車輪を上から強くたたいたとき、すれやがたがあると、走行中に外れて事故を起すおそれがあります。直ちに使用をやめ、販売店にご相談ください。



警告

クイックリリースハブを採用している自転車は、乗車する前に必ず点検し正しく取り付けられているか確認して下さい。固定が弱い場合は車輪が外れるおそれがあり、人身事故につながるなど危険です。



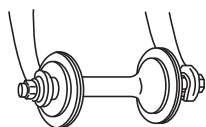
警告

車輪の固定がゆるみ動いたりして位置がずれると、車輪の回転が重くなったり、後車輪の場合はシフト（変速）に支障が発生します。

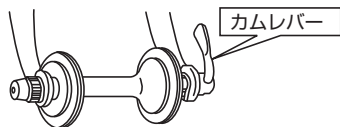
片側に寄った狂った車輪の固定位置。

●ハブの調整

ハブは大別してナット式とクイックリリース式がありますが、いずれの方式もフレームやフォークに確実に、正しい位置にしっかり固定してください。



ナット方式ハブ



クイックリリース方式ハブ

①ナット式

スパナを使用し、ナットを時計回りに回せばしまり、反時計回りに回せばゆるみます。

参考データ

*締め付けトルク：（前車輪）21～26Nm（210～260Kgf・cm）
（後車輪）32～37Nm（320～370Kgf・cm）

②クイックリリース式

カムレバーの位置が「CLOSE」の文字が見える方向に最後まで閉じて固定します。カムレバーの位置が途中であったり、「OPEN」の文字が見える方向になっていると、固定が弱く車輪が外れるおそれがあります。カムレバーが簡単に「CLOSE」の位置にセットできる場合は固定力が不足していますので、カムレバーを戻し、反対側の調整ナットを時計回りに回して固定力を上げてください。そして、再度カムレバーを「CLOSE」の位置へ閉じてください。※製品によりOPEN/CLOSEの表示がないものがございます。



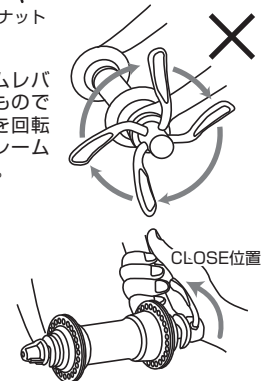
注意

クイックリリース方式はカムレバーを回転させて締め付けるものではありません。カムレバーを回転させただけでは、車輪をフレームやフォークに固定できません。



注意

カムレバーの操作は必ず手で行ってください。カムレバーを閉じるときは、手のひらが多少痛くなる程度に強い力で押しつけるのが適当です。ハンマーなどで倒す操作は決して行わないでください。



警告

車輪の固定が不十分だと、車輪が外れ重大事故の発生につながりますので、点検と調整については専用の説明書をご覧ください。



警告

クイックリリース方式のカムレバーの調整について自信のない方は、販売店にご相談ください。



警告

ホイール・ハブにがたつきを感じましたら直ちに使用を停止してご購入いただいた販売店で点検修理をお受けください。ハブ軸・ホイール・フレームの破損の要因となります。

サスペンション

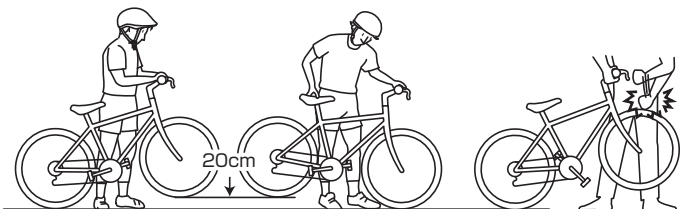
マウンテンバイクなどに装着されているサスペンション（車体懸架装置）はフロントフォークに内蔵されているフロントサスペンションとフレームのリアサスペンション（ダンパー）に分けられます。



警告

自転車を20cmほど持ち上げて地面に落とし、サスペンション周辺から異常な音を聞いたなら故障のおそれがあります。自転車を持ち上げて車輪を上から強くたたいたとき、すれやがたがあると、走行中に外れて事故を起すおそれがあります。直ちに使用をやめ、販売店にご相談ください。

異常な音とは？ 金属をはじくような音、ゴリゴリ音、擦れる音などです。またゴムの擦れる音なども含まれます。



警告

「フロントブレーキをかけながらハンドルに体重を乗せてフロントサスペンションの動きを見た」場合、もしくは「体重をサドルに乗せてリアサスペンションの動きを見た」場合、それぞれ円滑に作動しない場合は故障のおそれがあります。直ちに使用をやめ、販売店にご相談ください。



警告

フロントモリアもサスペンション周辺にオイル漏れを発見したら故障のおそれがあります。



警告

サスペンションの設定を変えるとハンドルやブレーキの操作感覚が変わり、自転車のコントロールを失うおそれがありますので、設定は勝手に変えないで販売店にてご確認ください。

●フロントサスペンションの調整

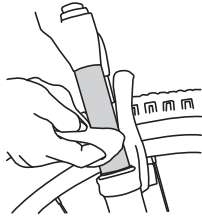
①異音を聞いたり、ガタを発見した場合は直ちに使用を中止して販売店にご相談ください。

異常な音とは？
金属をはじくような音、ゴリゴリ音、擦れる音などです。またゴムの擦れる音なども含まれます。

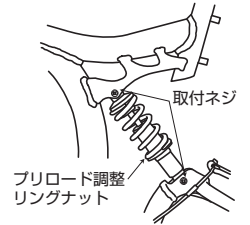
②自転車に乗ったときに25～30%サスペンションが縮む状態が適当なプリロード（初期負荷量）ですので、動かない場合はプリロードを柔らかくし、縮み過ぎる場合はプリロードを硬くしてください。（プリロード調整方法は、サスペンションの取扱説明書をご覧ください。）

③作動部分が円滑に動くように多少の油分が付着していますが、油が漏れている場合は使用を中止して販売店にご相談ください。

④作動部分に土や砂などが付着すると表面を傷つけやすくなりますので、拭き取って清潔な状態を保ってください。



②自転車に乗ったときに25～30%サスペンションが縮む状態が適当なプリロードですので、動かない場合はプリロードを柔らかくし、縮み過ぎる場合はプリロードを硬くしてください。エア式の場合は空気圧が規定値になっているか、確認してください。（プリロード調整方法は、サスペンションの取扱説明書をご覧ください。）



③作動部分が円滑に動くために多少の油分が付着していますが、油が漏れている場合は使用を中止して販売店にご相談ください。

④作動部分に土や砂などが付着すると表面を傷つけやすくなりますので、拭き取って清潔な状態を保ってください。



警告

サスペンションの調整は知識と経験が必要ですので、異常を見つけたら直ちに使用を中止して販売店にご相談ください。



警告

サスペンションはいろいろなタイプが使用されていますので、点検と調整については専用の説明書をごらんになるか、販売店にご相談ください。

●リアサスペンションの調整

①異音を聞いたり、ガタを発見した場合はリアショックの取付けネジを点検し、ゆるんでいたら締め直してください。原因が不明の場合は販売店にご相談ください。

参考データ

*締め付けトルク：7～9Nm（70～90Kgf・cm）

正しい取り扱い方法



注意

快適にご乗車いただくために、正しく的確に操作してください。



警告

ディレラー、シフトレバーはいろいろなタイプが使用されていますので、操作方法については専門の説明書をご覧ください。



警告

ディレラー、シフトレバーは繊細で調整には経験が必要ですので、異常を見つけたら販売店にご相談ください。

ご不明な点がございましたらお買い上げいただいた販売店にご相談ください。



警告

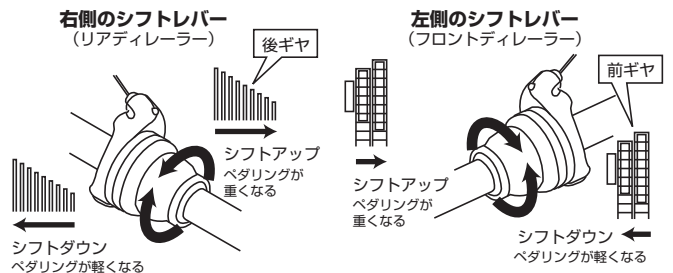
ディレラーはスピードを出すための装備ではありません。常用速度（大人車：15～24km/h）を守り、スピードはいつも控えめにしてください。

●シフトレバーの操作

ここでは代表的なシフトレバーについて説明しています。

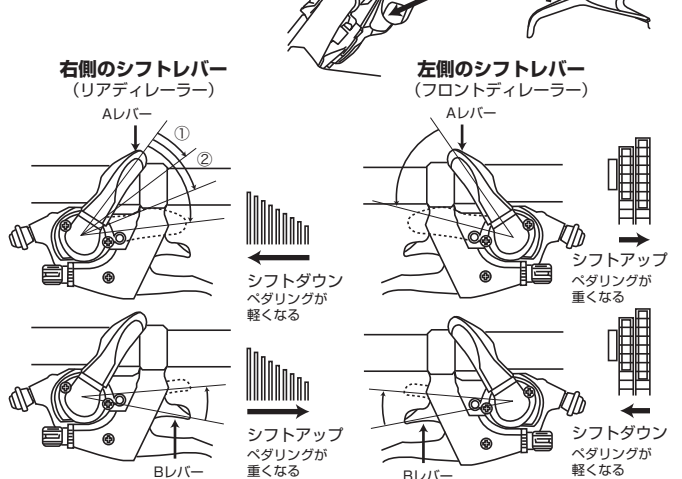
①回転式グリップタイプ

シフトレバーを回転させて、シフトダウンとシフトアップを操作します。



②ノック式ダブルレバータイプ（ラビッドファイヤー）

親指を使ってAレバーを押し、人差し指でBレバーを引いて、シフトダウンとシフトアップを操作します。



ディレラー（外装変速機）の操作

●ディレラーの目的

ディレラーは坂道、路面状況、風向き、乗員の体調など走行条件の変化に応じて、ギア比を変えてペダルの回転速度と重さを一定にし、疲れを最小限にとどめて長距離走行に対応することができます。

●ディレラーの使い方

左側のシフトレバー	右側のシフトレバー
フロントディレラーのギヤチェンジ	リアディレラーのギヤチェンジ
ギャクランク（前ギヤ）	フリーホイール（後ギヤ）

ハンドル右側のシフトレバーでリアディレラーを、左側のシフトレバーでフロントディレラーを作動させ、ペダルを正回転しながらシフトチェンジ（変速）し、ギャクランクやフリーホイールのギヤにチェーンを掛け変えてギヤ比を変更しながら最適なギヤ比を選択します。



禁止

ペダルの回転を止めたままや、逆回転しながらシフトチェンジすると、ディレラーやチェーンを傷め故障の原因になります。



禁止

一度に2段以上のシフトチェンジをしたり、ペダルを強く踏みながらシフトチェンジするとチェーンが外れたり、力を入れたタイミングがずれてペダルを踏み外すおそれがあります。



禁止

停車時や、停車状態から踏み出すときにシフトチェンジをしないでください。ディレラーが故障したりペダルを踏み外すおそれがあります。



禁止

シフトチェンジを急激に繰り返すと、チェーンがギヤにくい込んだり外れるおそれがあります。

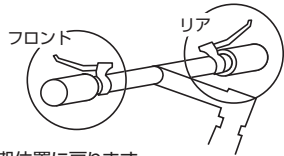
③ フラットハンドルバー型

変速操作方法レバー

操作時には必ずクランクを回しながら操作を行ってください。

操作時の注意

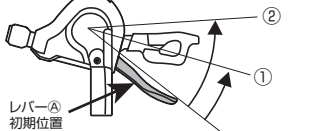
レバー(A)、(B)とも、変速完了後はレバー初期位置に戻ります。



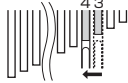
右側のシフトレバー(リアディレクター)
1段分だけ変速する場合は1の位置まで操作し、2段分変速する場合は2の位置まで操作するという具合に、変速したい段数分のストロークを操作します。

レバー(A)

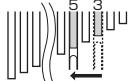
リア小ギヤから大ギヤへの変速



①1段分だけ変速
例：3段目から4段目へ

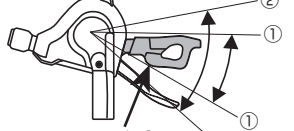


②2段分一気に変速
例：3段目から5段目へ



レバー(B)

リア大ギヤから小ギヤへの変速



例：4段目から3段目へ

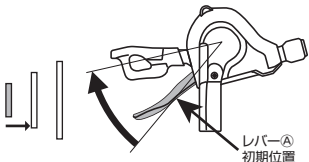


「押しでも引いても変速が出来ます」
一部、2段分の変速操作が出来るモデルがあります。

左側のシフトレバー(フロントディレクター)

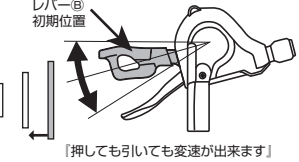
レバー(A)

フロント小ギヤから大ギヤへの変速



レバー(B)

フロント大ギヤから小ギヤへの変速



「押しでも引いても変速が出来ます」

※車種によってシフターの取扱い詳細が異なる場合があります。

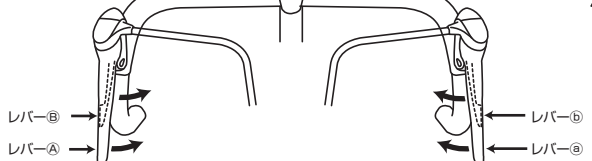
④ ドロップハンドルバー型

デュアルコントロールタイプ

ブレーキレバー(A)を内側に押し、補助リリースレバー(B)を内側に押し、シフトダウンとシフトアップを操作します。

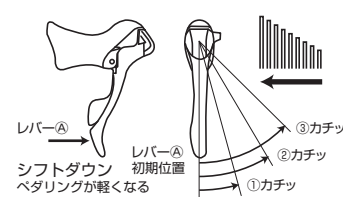


リアディレクター フロントディレクター

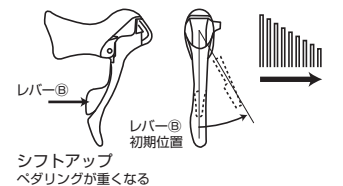


レバー(A)：フリーホイールの小ギヤから大ギヤへのシフトチェンジ。
レバー(B)：フリーホイールの大ギヤから小ギヤへのシフトチェンジ。
レバー(C)：ギアクランクの小ギヤから大ギヤへのシフトチェンジ。
レバー(D)：ギアクランクの大ギヤから小ギヤへのシフトチェンジ。

右側のシフトレバー(リアディレクター)

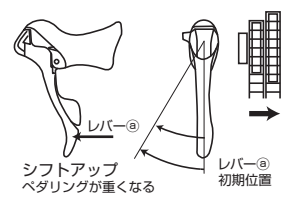


レバー(A) シフトダウン
ベダリングが軽くなる

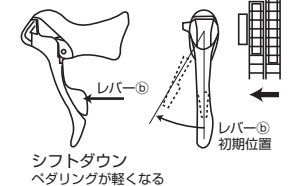


レバー(B) シフトアップ
ベダリングが重くなる

左側のシフトレバー(フロントディレクター)



レバー(C) シフトアップ
ベダリングが重くなる



レバー(D) シフトダウン
ベダリングが軽くなる

●シフトチェンジの目安

ロードバイクの場合左側のシフトレバーで2枚の前ギヤ、右側のシフトレバー8~12枚の後ギヤ、マウンテンバイクの場合左側のシフトレバーで3枚の前ギヤ、右側のシフトレバーで7~12枚の後ギヤが選択できます。これらの中から「ご自身の足が快適に動くちょうどいい重さのギヤ」を選んで使用してください。走行条件に合わせてシフトチェンジを繰り返し、ベダリングは毎分60~80回転を目安に走ることをおすすめします。

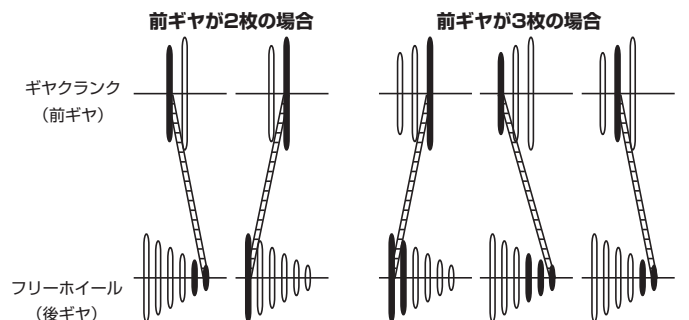
走行条件	シフトレバーの操作	チェーンを掛ける方向	前後のギヤの選択
上り坂のとき ペダルの回転が重い	シフトダウン ペダルの回転を軽く (低速方向)	ギアクランクがインナーギヤ(最小ギヤ) フリーホイールがローギヤ(最大ギヤ) ※坂の手前で早めにシフトチェンジして下さい。	最大ギヤ 最小ギヤ
平地を走るとき ペダルの回転は普通	ミドルシフト ペダルの回転は安定 (安定方向)	ギアクランクがミドルギヤ(中間ギヤ) フリーホイールがミドルギヤ(中間ギヤ) ※ちょうどいい重さのギヤを選んで下さい。	中間ギヤ 中間ギヤ
下り坂のとき ペダルの回転が軽い	シフトアップ ペダルの回転をゆっくり (高速方向)	ギアクランクがアウターギヤ(最大ギヤ) フリーホイールがトップギヤ(最小ギヤ) ※ブレーキをかけながらスピードをコントロールして下さい。	最小ギヤ 最大ギヤ
発進と停止のとき ペダルの回転は停止	ミドルシフト ペダルの回転の準備 (停止方向)	ギアクランクがミドルギヤ(中間ギヤ) フリーホイールがミドルギヤ(中間ギヤ) ※周囲の安全を確認してから発進。 後ブレーキを先にかけてから停止。	中間ギヤ 中間ギヤ

●チェーンの接触



注意 チェーンが斜めになるギヤの組み合わせでは、チェーンがギアクランクやフロントディレクターに接触して音鳴りが発生する場合があります。

前後ともに大きいギヤ、または前後ともに小さいギヤの組み合わせでは、チェーンが斜めになり音鳴りが発生する場合があります。また、これらのギヤの組み合わせはチェーンやディレクターに負担がかかり耐久性が低下し、ペダルの逆回転するとチェーンが外れる場合がありますので、この組み合わせは避けてください。音鳴りが気になる場合の暫定的な処置としては、フリーホイールを1~2段大きいギヤにシフトチェンジしてください。



※このギヤの組合せはできるだけさけてください。

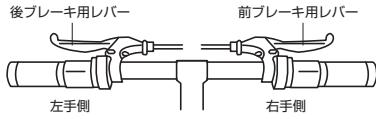
ブレーキの操作



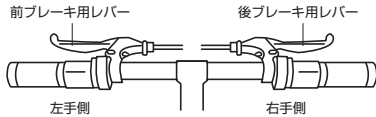
注意

大部分の自転車のブレーキレバーは、右手側が前ブレーキで左手側が後ブレーキですが、逆の組合せもありますので、走行前に組合せを必ず確認してください。

ブリティッシュスタイル (日本やイギリス)



コンチネンタルスタイル (アメリカやフランス)



●ブレーキ操作順序

前ブレーキだけで停止した場合、走行による慣性のために前車輪を軸にして後部が上方に浮き上がり、前めりに転倒し負傷する危険があります。とくに、スピードを出している時は危険性が高まります。必ず後ブレーキを先にかけて減速してから前ブレーキをかけて完全に停止してください。

●前後ブレーキ操作の厳守

前ブレーキまたは後ブレーキだけ強くかけると、前車輪または後車輪がロックして自転車の操縦が困難になって転倒するおそれがあります。ブレーキをかける時は、必ず前後のブレーキを両方ともかけてください。

●雨天のブレーキ操作

雨天の日はブレーキが効きづらく、路面が濡れているとスリップしやすい状態になりますので、スピードを出さず早めのブレーキングを心がけてください。

●ディスクブレーキの操作

ディスクブレーキは慣らし運転期間があり、慣らし期間が進むにしたがってブレーキの制動力が上がっていきしますので初期段階での急ブレーキには注意を払い、ブレーキ制動力の増加に順応しブレーキレバーの操作を調節してください。

●ブレーキレバーの操作

ブレーキレバーを操作する場合、レバーには人差し指を中心に2本以上の指をかけて確実に作動してください。

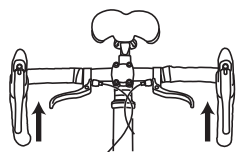
ノーマルタイプレバー



ラビッドファイヤー
対応レバー

デュアルコントロールタイプ (フラットハンドルタイプ)

トップマウントタイプ



デュアルコントロールタイプ (ドロップハンドルタイプ)



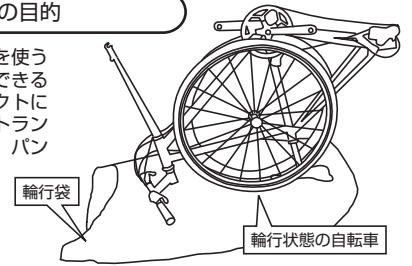
警告

ブレーキやブレーキレバーはいろいろなタイプが使用されていますので、操作方法については専用の説明書をごらんになるか、販売店にご相談ください。

車輪の脱着方法 (クイックリリースハブの活用)

●クイックリリースハブの目的

クイックリリースハブは工具を使うことなく、前後の車輪を脱着できるシステムで、自転車をコンパクトに分解し、狭い場所や自動車のトランクへの保管、輪行袋への収納、パンクの修理などに便利です。

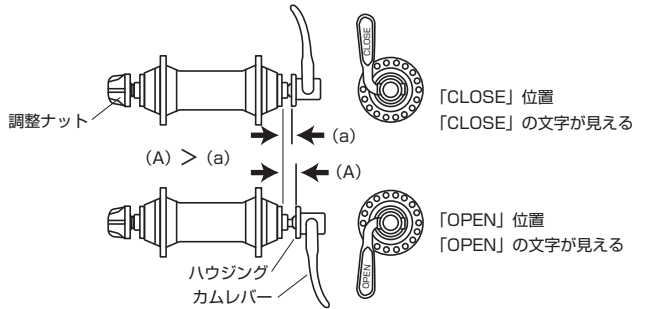
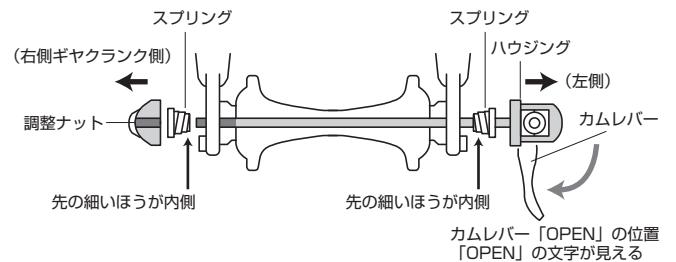


●クイックリリースハブの構造と機能

クイックリリースハブはレバーの操作で車輪の固定と解除が簡単にできる機構です。カムレバーを「OPEN」の位置から「CLOSE」の位置へ180度倒すとハウジングが内側に動き、この力でフレームのドロップアウトやフロントフォークのエンドを強い力ではさみつけて車輪を固定します。カムレバーを「OPEN」の位置に戻せばゆるみ、車輪の固定は解除されます。

※製品によりOPEN/CLOSEの表示がないものがございます。

クイックリリースハブの構造 (カムレバーを開いた「OPEN」の状態)

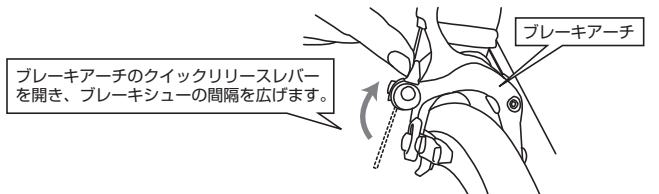


注意

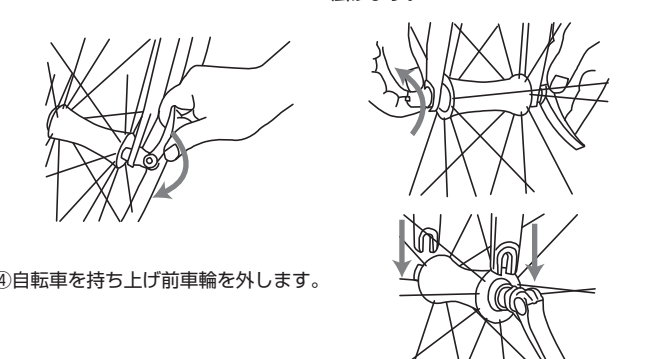
初めてクイックリリースハブを使用される方は、販売店で実際に操作の指導を受け、原理を理解してからよく練習した後で作業してください。

●前車輪の外し方

①ブレーキアーチを開き、ブレーキシューの間隔をタイヤが通れる幅に広げます。開き方はブレーキの種類によって異なりますので、操作方法がわからない場合は専用の説明書をごらんになるか、販売店にご相談ください。ディスクブレーキの場合はこの作業は不要です。



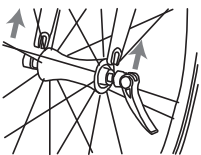
②カムレバーを「OPEN」の位置へ倒します。③調整ナットを反時計回りに回してゆるめ、ハウジングと調整ナットの間隔を広げます。



④自転車を持ち上げ前車輪を外します。

●前車輪の取り付け方

- ①カムレバーを「OPEN」の位置でゆるめた状態で、前車輪の軸をフォークのエンドにはめ込みます。



注意

カムレバーは自転車の左側に位置させてください。



注意

ハブの軸がエンドの奥に当たるまで確実にセットしてください。

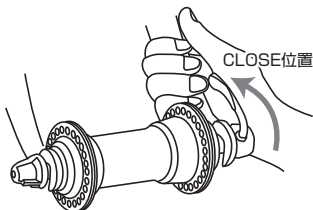


- ②カムレバーを「CLOSE」の位置に倒します。カムレバーが簡単に「CLOSE」の位置にセットできる場合は固定力が不足していますので、カムレバーを戻し、反対側の調整ナットを時計回りに回して固定力を高めてください。そして、再度カムレバーを「CLOSE」の位置へ閉じてください。



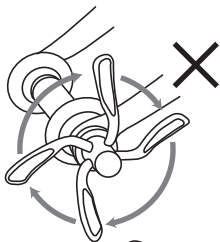
注意

カムレバーの操作は必ず手で行ってください。カムレバーを閉じるときは、手のひらが多少痛くなる程度に強い力で押しつけるのが適当です。ハンマーなどで倒す操作は決して行わないでください。

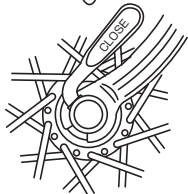


注意

クイックリリース方式はカムレバーを回転させて締め付けるものではありません。カムレバーを回転させただけでは、車輪をフォークに固定できません。



- ③カムレバーの方向はフォークに沿うようにするか、進行方向に対して後ろ向きにしてください。

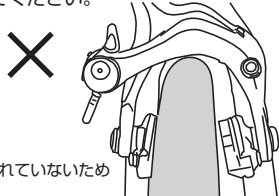


- ④ブレーキアーチを閉じて、ブレーキが正常に操作できるか確認してください。



注意

前車輪が正しく組み付けられていないと回転が重くなりますので、フォークの内側とリムとの左右の間隔が同一であるか確認してください。

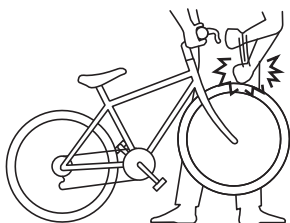


正しく組み付けられていないためずれた車輪の例



警告

自転車を持ち上げて車輪を上から強くたたいたとき、すれやがたがあると、走行中に外れて事故を起すおそれがあります。

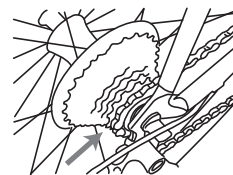


●後車輪の外し方



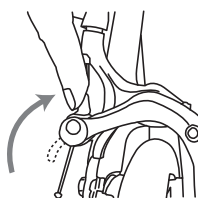
注意

自転車をさかさまに立てて作業をすると便利です。

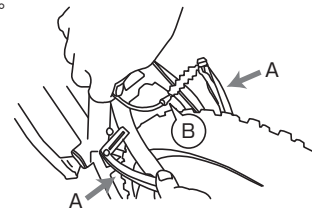


- ①シフトレバーを操作し、ギヤクランクがインナーギヤ（最小ギヤ）、フリーホイールはトップギヤ（最小ギヤ）にチェーンをかけてください。

- ②ブレーキアーチを開き、ブレーキシューの間隔をタイヤが通せる幅に広げます。開き方はブレーキの種類によって異なりますので、操作方法がわからない場合は専用の説明書をご覧ください。ディスクブレーキの場合はこの作業は不要です。



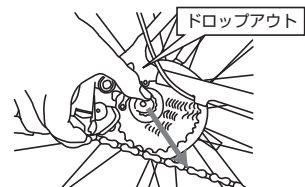
ブレーキアーチのクイックリリースレバーを開き、ブレーキシューの間隔を広げます。



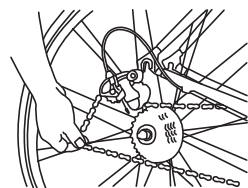
ブレーキアーチを左右からAの方向に握り、ワイヤーがたるむのでBを外すと解放されてブレーキシューの間隔が広がります。

- ③カムレバーを「OPEN」の位置へ倒します。

- ④リアディレーラーを手で持って後方へ引きながら、ドロップアウトからハブ軸を前に押し出し、後車輪を外します。



- ⑤後車輪をドロップアウトから外したら、フレームを持ち上げてフリーホイール（後ギア）にかかっているチェーンを取り外して、後車輪を完全に外します。



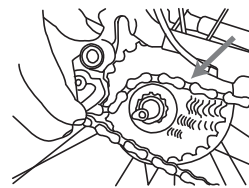
●後車輪の取り付け方



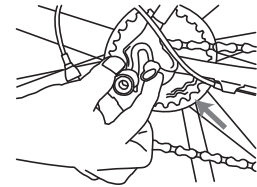
注意

自転車をさかさまに立てて作業をすると便利です。

- ①シフトレバーを操作し、ギヤクランクのインナーギヤ（最小ギヤ）にチェーンをかけ、リアディレーラーはトップギヤ（最小ギヤ）に位置させてください。



- ②カムレバーを「OPEN」の位置でゆるめた状態で、リアディレーラーを手で持って後へ引きながら、後車輪の軸をドロップアウトへはめ込みます。



注意

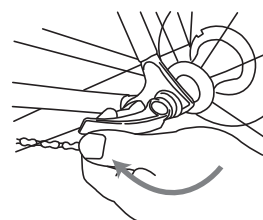
カムレバーは自転車の左側に位置させてください。



注意

ハブ軸がドロップアウトの奥に当たるまで確実にセットしてください。

- ③カムレバーを「CLOSE」の位置に倒します。カムレバーが簡単に「CLOSE」の位置にセットできる場合は固定力が不足していますので、カムレバーを戻し、反対側の調整ナットを時計回りに回して固定力を高めてください。そして、再度カムレバーを「CLOSE」の位置へ閉じてください。





注意

カムレバーの操作は必ず手で行ってください。カムレバーを閉じるときは、手のひらが多少痛くなる程度に強い力で押しつけるのが最適です。ハンマーなどで倒す操作は決して行わないでください。

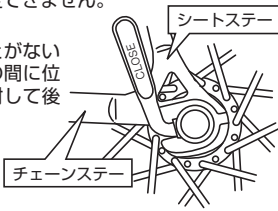


注意

クイックリリース方式はカムレバーを回転させて締め付けるものではありません。カムレバーを回転させただけでは、車輪をフレームに固定できません。

④カムレバーは引っかかって解除されることがないように、チェーンステアとシートステアの間に位置させてください。もしくは進行方向に対して後ろ向きにしてください。

⑤ブレーキアーチを閉じて、ブレーキが正常に操作できるか確認してください。



注意

後車輪が正しく組み付けられていないと回転が重くなりますので、チェーンステアの内側とリム、シートステア内側とリムとの左右の間隔が同一であるか確認してください。



警告

自転車を持ち上げて車輪を上から強くたたいたとき、ずれやがたがあると、走行中に外れて事故を起すおそれがあります。



警告

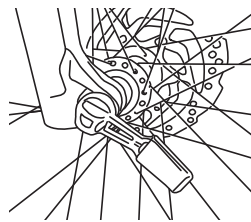
車輪の固定が不十分だと、車輪が外れ重大事故の発生につながりますので、車輪の着脱やクイックリリースレバーの取り扱いについては販売店にご相談ください。

スルーアクスルの使用について

スルーアクスルは、オープンエンド式のクリックリリースよりも、クローズドエンドのフレームに対し太いアクスルを貫通させて車輪を締め付けるため、剛性と固定力が高くなります。スルーアクスルには、クイックレバー付属式と、六角レンチ式の2種類があります。

●クイックレバー付属式の場合

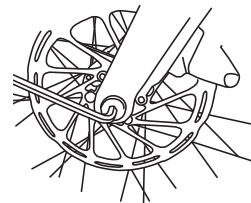
取外し
レバーをOPEN側にして、反時計回りに回すとアクスルが緩みます。十分に緩めた後に、アクスルを抜き取ってください。車輪の取り外しは前述のクイックリリースハブと同じです。



取付
ホイールをフレームに合わせ、アクスルを挿入します。レバーを時計回りに締め付け、最後にレバーを倒して車輪を固定します。

●六角レンチ式の場合

取外し
サイズの適合した六角レンチを使用し、反時計回りに回すとアクスルが緩みます。十分に緩めた後に、アクスルを抜き取ってください。車輪の取り外しは前述のクイックリリースハブと同じです。



取付
アクスルを挿入し、必ずアクスルに記載の規定推奨トルクで締め付けてください。



注意

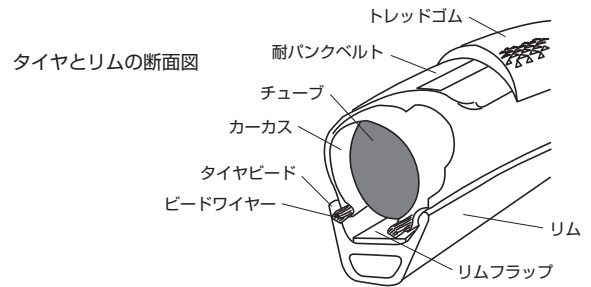
アクスルを真っ直ぐ装着せず無理に締め付けると、フレームを破損する恐れがありますのでご注意ください。初めてご使用される方は販売店で実際に操作の指導を受け、仕組みと取扱方法をご理解の上、ご使用ください。

タイヤとチューブの脱着とパンク修理

タイヤとチューブの脱着ができれば、タイヤやチューブの交換やパンクの修理ができます。

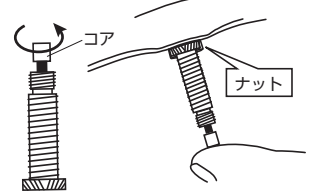
●タイヤとリムの構造

タイヤとリムの接合は、タイヤのふち（ビード）をリムのふちに引掛けて、チューブの空気圧を上げることでタイヤをリムに固定しています。したがって、チューブから空気を抜いてビードをリムから外せばリムからタイヤを外せて、中に取っていたチューブも取り出すことができます。



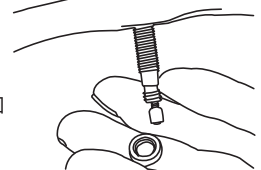
●タイヤとチューブの取り外し

①バルブの先端のコアの引き上げネジを反時計回りで回してゆるめ、コアの先端を軽く押してチューブの空気を抜きます。

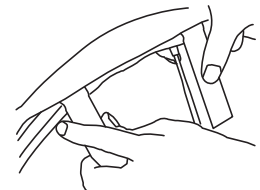
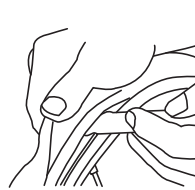


バルブの種類によって空気を抜く方法は異なります。不明な点は販売店にご相談ください。

②バルブの根元にあるナットを反時計回りで回してゆるめ、ナットを取り外します。

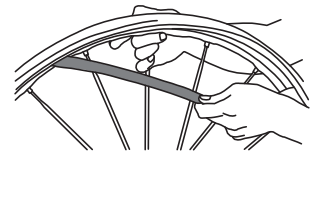


③バルブと反対側のリムとタイヤの間にタイヤレバーを差し込み、リムを支点にしてタイヤレバーを回転させてタイヤのビードをリムから外します。1箇所外したら、別のタイヤレバーで10cm離れた場所のビードを外します。

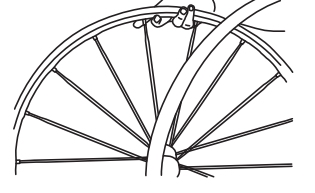
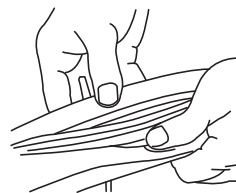


④ある程度タイヤがリムから外れたら、指先で片面すべてのビードをリムから外します。

⑤バルブの反対側の、タイヤとリムの間からチューブを引き出し、バルブをリムから抜きます。



⑥タイヤは、すでに外してある側に向かって残った部分を引っ張れば、リムから完全に外せます。

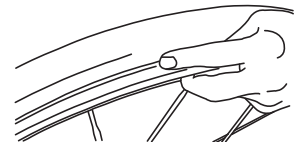


●タイヤとチューブの取り付け



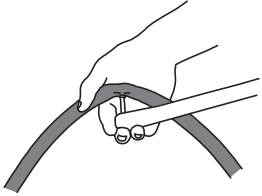
チューブがねじれたり、タイヤのビードとリムの間にはさまったりして、正しい位置に取っていない場合はパンクの原因になります。

①タイヤの片側を完全にリムにはめます。

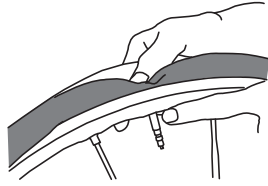


タイヤは前輪用と後輪用の区別のある種類や、回転方向が決まっているものがありますので、装着をまちがえると性能が発揮できません。

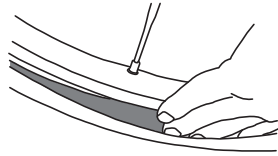
②チューブに軽く空気を注入し、空気が抜けないようにコアの引き上げネジを時計回りに回してしめます。



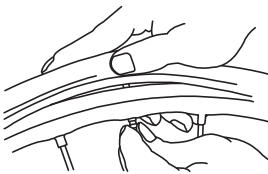
③バルブの個所からチューブをタイヤとリムの間に差し込み、バルブをリムのバルブ孔に通し、外側からタイヤを被せるようにします。



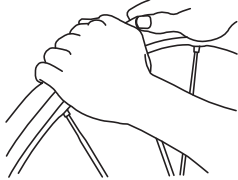
④少しずつチューブをタイヤとリムの間に入れ、最後は全体をおさめます。



⑤バルブを少し浮かして、この部分のタイヤのビードをリムにはめます。



⑥手のひらで押すようにして、1箇所ずつタイヤをリムにはめます。



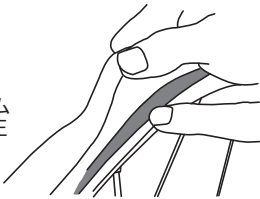
注意

タイヤを手で完全にリムにはめられない場合はタイヤレバーを使用しますが、そのときタイヤレバーとリムの間にチューブをはさんでパンクさせないように注意してください。

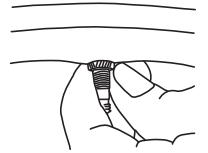


注意

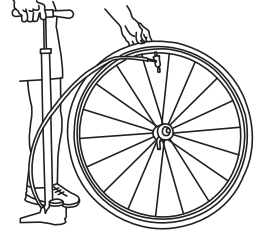
タイヤをずらして内部を調べ、チューブがリムとタイヤの間にはさまったりしていないか、正しい位置に収まっているか確認してください。



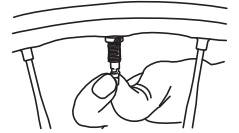
⑦バルブを固定するナットを時計回りに回し、締めて取り付けます。



⑧適当な空気圧を注入します。



⑨バルブのコアの引き上げネジを時計回りに回して完全にしめます。



注意

適当な空気圧 (P13 参照) はタイヤの側面に表示されていますので、それに合わせて空気を注入してください。



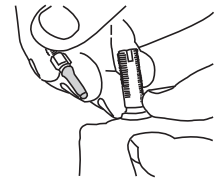
●パンクの修理

①チューブ本体を調べる前に、まずバルブを調べてください。

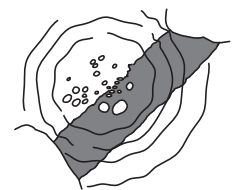


警告

チューブのバルブに劣化やゆるみがある場合は空気もれの原因になります。



②空気を注入したチューブを水中に入れると、空気もれている場合は、そこから上る気泡で場所が確認できます。

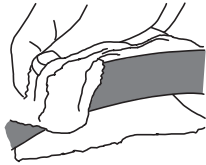


ドロップハンドルバーの使い方

ドロップハンドルバーに対しては、手先を自然に伸ばした状態でハンドルを握るので手首に負担がかからず、握る位置を変えることによってライディングポジションがいろいろ変更できて、走行条件の変化に対応できます。その結果、多くのロードバイクに採用されスピード走行や長距離走行に適しています。

ポジション	握る部分	ライディングフォーム	用途	ブレーキのかけ方	レベル
	ハンドルバー上部の直線部分	姿勢が楽になる	平地の舗装路をゆっくり走る	ブレーキブラケットの上から2~3本の指でレバーを操作	
	ハンドルバー側面の曲線部分	手が疲れにくい	少し悪い道やゆるい上り坂 時速15~20kmの走行		
	ブレーキブラケットの部分	すぐにブレーキに対応	悪い道、上り坂や向い風 時速20km以上の走行		
	ハンドルバー下側の曲線から直線部分	前傾姿勢の本気モード	高速走行や強い向い風 など力を入れてペダルを踏む場合	ハンドルバーの下側から2~3本の指でレバーを操作	

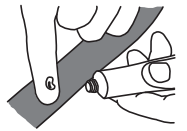
③穴空き箇所を見つけたら、水を拭き取り穴の位置を確認します。



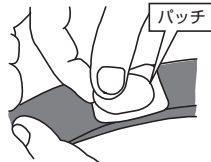
④チューブの空気を抜きます。穴の周囲を軽石やサンドペーパーで擦りパッチの密着性を高めます。



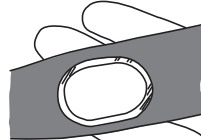
⑤ゴムのりを薄く塗り伸ばして乾燥させます。



⑥保護紙からパッチをはがして、パッチの接着面に触れないように注意し、ゴムのりを塗布した穴の部分に貼り付けます。



⑦パッチの上から強く押し付けパッチをチューブに密着させ、保護紙をはがします。



⑧空気を注入し、漏れていないか確認してください。

注意 空気圧の高いロードバイクがパンクしたとき、修理しても不安が残る場合は新品のチューブに交換して対応してください。

警告 タイヤやチューブは、外見が同じように見えてもいろいろなサイズがあります。間違ったサイズを組合せるとパンクの原因になりますので、正しいサイズを組合せてください。交換する場合は販売店にご相談ください。

ビンディングペダルの使い方

ビンディングペダルは靴（すなわち足）を正しい位置でペダルに固定することで、引き上げ時の力を推進力に変え、快適で効率のいいペダリングを実現します。ビンディングペダルを使いこなすことができれば、ペダリングの技術が向上し、スピード走行や長距離走行に効果を発揮します。

警告 販売店でビンディングペダルの使い方の説明を必ず受けてから使用してください。

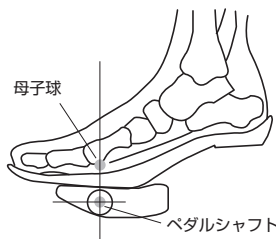
警告 ビンディングペダルを使用するためには習熟した技術が必要で、不慣れな状態で使用すると、ペダルから足が外れず転倒するおそれがあります。

ビンディングペダルの着脱の練習は、最初に自転車を停止した状態で行い、次に障害物や交通往来のない安全な広場などで行い、使い方を習熟してから公道へ出るようにしてください。

注意 ビンディングペダルはそれぞれの種類に応じて専用の靴とクリート（結合金具）が必要です。不明の場合は販売店にご相談ください。

●ペダルに対する足の位置

親指の母指球の中心と、ペダル軸の中心が一直線上に重なる位置が基本です。そして実際に自転車でペダリングをして、違和感があったら、クリートの位置を微調整をしてベストポジションを探します。信頼できる販売店で説明を受けていただくことをおすすめします。



●シューズへのクリートの取り付け

使用するビンディングペダルに対応したクリートをシューズに取り付けます。クリートは消耗品ですので、摩耗し解除が重く感じ始めたり、逆に軽く感じ始めたら、早めに新しいクリートと交換してください。

参考データ

*締め付けトルク：5～6Nm（50～60kgf・cm）

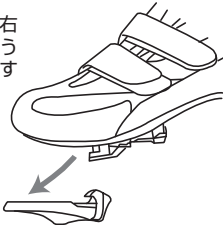


※図は参考です

警告 メンテナンスしないで乗り続けると、ペダルからシューズが外れなかったり、予期せず外れたりして、転倒するおそれがあります。

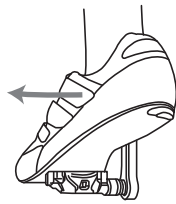
●使用方法

①自転車にまたがり左足を地面に接地したまま、右足のペダルのビンディングにクリートをななめうしろ方向から押し込みます。「カチッ」と音がすれば固定は完了です。



②自転車を発進させ、左ペダルのビンディングにクリートをななめ後方向から押し込みます。「カチッ」と音がすれば固定は完了です。ペダリングを開始してください。

③靴のかかとを外側にひねるとビンディングが解除されて、靴がペダルから外れます。

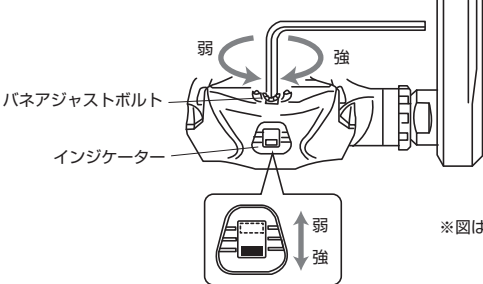


注意 自転車にまたがり片足を地面に接地したまま、右足の次は左足と、繰り返し固定と解除の練習を行って必ず習熟してください。習熟しないで使用した場合、転倒などのおそれがあります。

●キャッチとリリースの強さの調整

ほとんどのビンディングペダルには、クリートを固定するスプリング力を調整するネジがありますので、自分に最適のクリート固定力に調整してください。

注意 固定力が強いとクリートをペダルに固定できず、固定したとしても解除できない場合があります。反対に、ゆるいと予期せず外れて危険です。



※図は参考です

警告 ビンディングペダルはいろいろなタイプが使用されていますので、操作や調整の方法については専用の説明書をごらんになるか、販売店にご相談ください。

警告 低速走行や停車する可能性がある場合は、いつでも足を接地できるように事前にペダルから解除してください。

カーボンフレームとフォークの取り扱い説明



警告

乗車中にフレームまたはコンポーネントに重大な欠陥が発生すると、けがや死亡事故のおそれがありますので、以下の指示や説明を必ず守ってください。

日常の点検チェック

お選びいただいたバイクのフレームやフォークは、最高水準のカーボンファイバー素材で作られています。カーボンファイバーは特別な素材であり、組み立て、保管、乗車の際には注意深い保守・点検が必要です。

金属と異なり、カーボンファイバーはダメージを受けた際にゆがみや隆起など外形の変化が起こらないことがあり、損傷箇所が見分らない場合が多いので、バイクに衝突や衝撃など大きな力が加わった際には、すべての箇所を徹底的に調べてください。カーボンファイバーのフレームやパーツを点検する場合、以下の手順が有効です。

- ① ひっかき傷や穴など、表面の異常をチェックする。
- ② 柔らかくなっている箇所がないかチェックする。
- ③ 裂け目がないかチェックする。
- ④ ハンドル操作、ブレーキ操作、ディレラー操作などの走行中の異常について注意する。
- ⑤ キーキー、カチカチなどの異音が発生していないか注意する。

多少でも不安がある、もしくは一箇所でも上記の疑いがある場合には乗車しないでください。ダメージの疑いがあるカーボンファイバーのフレームやパーツの扱いには十分注意をしてください。ダメージを受けた箇所ではカーボン繊維が分離している恐れがあります。カーボン繊維は髪の毛より細く、かつ非常に堅いため、肌に触れた際に針のように刺さるおそれがあります。



注意

ダメージを受けたカーボンファイバーのパーツも、突然に壊れて、けがや死亡事故につながる恐れがありますので、ダメージが無いが頻繁に点検してください。ダメージの疑いがある場合には、乗車前に対象のパーツを交換するか、販売店にご相談ください。

コンポーネントの交換や追加

ハンドルバー、ハンドルステム、シートポスト、サドル、ブレーキなどのバイクのコンポーネントは、フレームや他のパーツと確実に適合し使用可能であることをご確認ください。互換性についてはお近くの販売店までご相談ください。



注意

自転車の組み立てはトレーニングと経験が必要とされる複雑な作業です。けがや死亡事故につながる恐れがありますので、知識と経験の無い方はコンポーネントの組み付けを行わないでください。



注意

フレーム、もしくはバイクをリペアスタンドにセットする際にはシートポストをはさんで固定するようにし、フレームでの固定は絶対に避けて下さい。フレームを傷つける原因になり、その傷は目で確認できず、またフレームの構造を損なう場合もあり、けがや死亡事故につながるおそれがあります。



注意

フレームやコンポーネントなどのカーボン素材を傷つけないためには丁寧なケアが必要です。小さなダメージであれ、構造に欠陥を生み、大きなダメージにつながる可能性があります。また、このダメージは点検時に目に見えないこともありますので、乗車前に、あるいは衝突があった後に、バイクを念入りに点検し、へこみや擦り切れ、穴や引掻き傷、たわみなどの症状が無いか確認してください。これらの症状が見つかった場合には乗車しないでください。衝突した後は、販売店で自転車の点検を受けてください。

お手入れと保管 (注油)

お手入れのケミカル用品

化学合成製法の自転車専用ケミカル用品を活用すれば、お手入れを簡素化し自転車を持持ちさせます。

●ディグリーザー (汚れ落とし)

チェーンやギヤの油汚れを落とすオイル除去剤で、吹き付けた後に水で洗浄します。

●ルブリカント (潤滑オイル)

ギヤやチェーンを正常に駆動させるために欠かせないもので、可動部に使用すれば耐久性を高めます。化学合成された、錆に対応できる防錆潤滑油が最適です。

●グリス (潤滑油)

ベアリングを使用した回転部分の減磨、パーツやネジの潤滑性の向上やさびの防止などに使用します。

●コーティング (保護やつや出し)

汚れ落とし、つや出し、錆止め、表面の保護に効果があります。

締め付けトルク

組み立てをうまく行い、コンポーネントもしくはフレームへのダメージを避けるためにはトルクの指示に必ず従ってください。正確なトルクの値について、この説明書を参照し、フレームやパーツの推奨されているトルク値に従ってください。※下記トルク値はあくまで参考値です。



注意

この組立説明書にあるトルク使用上の注意を厳守されない場合には補償の対象外となります。目に見えないダメージをフレームに負わせ、フレーム構造を損ない、けがや死亡事故につながるおそれもあります。

●ボトムブラケット

- 組み立てにあたってはボトムブラケットの取扱説明書をご参照ください。
- ボトムブラケットシェルにネジ山に汚れがなく、グリスが塗られていることを組み立て前に必ずご確認ください。トルクの最大値は50Nm(500kgf・cm)です。ボトムブラケットを取り付ける前に、グリスアップ以外には再加工などの準備作業は必要ありません。ボトムブラケットシェルにネジ山が傷ついた場合にはハンガータップをご利用いただいで構いません。矯正面取りやボトムブラケットの表面を加工するのはおやめください。

●カーボン製ハンドルステム

- 組み立てにあたってはハンドルステムの取扱説明書をご参照ください。
- ホークステムやハンドルバーへ締め付けする場合、推奨トルクは4~5Nm(40~50kgf・cm)です。
- ホークステムやハンドルバーの締め付け部分にグリスなどを塗らないでください。

●カーボン製シートポスト

- 組み立てにあたってはシートポストの取扱説明書をご参照ください。
- 推奨トルク値は7Nm(70kgf・cm)です。限界値の8.4Nm(84kgf・cm)を超えないでください。シートポストを傷つけます。
- 取り付けにはグリスを使用しないでください。



注意

けがや死亡事故の恐れがありますのでシートポストを限界線より上げないでください。

●ヘッドセットの取り付けと取り外し

- ヘッドセットの圧入部分を正確に加工していますので再加工は必要ありません。矯正面取りやヘッドチューブの表面またはチューブ径への加工はおやめください。

●フロントディレラー

- フロントディレラー取り付けの推奨トルク値は5Nm(50kgf・cm)です。限界値の7Nm(70kgf・cm)を超えないでください。

●ボトルケース

- ボトルケース取り付けの推奨トルク値は3.9Nm(39kgf・cm)です。限界値の4.5Nm(45kgf・cm)を超えないでください。

お手入れのしかた

1ヶ月に1回程度お手入れをすれば自転車は長持ちします。

●日常のお手入れ

乾いた布やブラシでほこり、土や泥を落してください。かんこな汚れには台所用中性洗剤やディグリーザーを薄めてご使用ください。

●汚れがひどいとき

油汚れはディグリーザーを使用し、水洗いしてから水分をよく拭き取って乾燥させ、その後は各部に注油してください。



注意

水洗いはできるだけ避けてください。どうしても水洗いが必要なときは、洗った後に自転車を逆さにして乾かしてください。

●フレームやフォークなどの塗装部分

汚れを落としてコーティングをしてください。

●ディレーラーやギアクランクのメッキやアルミニウム合金部分

汚れを落としてコーティングをしてください。



注意

リム、ブレーキシュー、ディスクローターなどの部分に油分が付着するとブレーキが効かなくなりますので、もし付着したら乾いた布で拭いてください。



注意

アルミニウム合金製のリムは、ブレーキシューとの接触で汚れる場合がありますが、性能に影響はありません。

●サドルやペダルのプラスチック部分

水で薄めた中性洗剤やディグリーザーで汚れを落とし、乾いた布で拭き取ってください。



警告

塗装がはげたりプラスチック製品が浸食されますので、シンナーなどの有機溶剤は使用しないでください。

各部への注油

1~2ヶ月に一回程度に必要な個所に注油してください。とくに雨天時に走行した後は水分や汚れを拭き取ってから注油することをおすすめします。



注意

使用する油は自転車専用の合成された防錆潤滑油を使用してください。食用油などは劣化し硬化するおそれがあります。

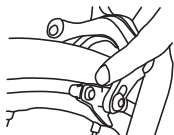


禁止

リム、ブレーキシュー、ディスクローターに注油するとブレーキが効かなくなり事故を起こすおそれがあります。



注油禁止



リムとブレーキシュー
ブレーキ性能が低下します。



注油禁止



素材がゴムの部分
ひび割れや劣化の原因になります。



注油禁止

ペダル、ボトムブラケット、ヘッドセット、ハブなどの回転部はグリスが封入されているために注油するとグリスが流れ出てしまいます。



グリスの封入部分
グリスが流れ出します。

シートチューブ

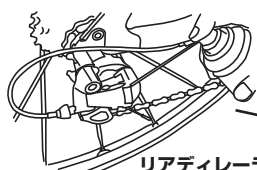
シートチューブ内側にグリスを塗ると、水の侵入とさびの防止に役立ちます。カーボンシートポストにはグリスは使用しないでください。

フロントディレーラー

ガイドプレートを動かす可動部分。

ケーブルストッパー

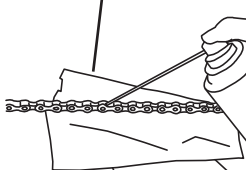
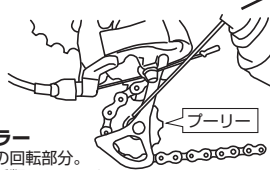
ワイヤーの出入口部分。



リアディレーラー
フリーを動かす可動部分やワイヤーの出入口部分。

リアディレーラー

上下のフリーの回転部分。
※注油が不要の種類もあります。

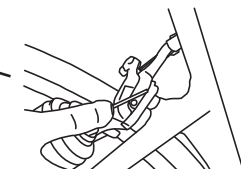
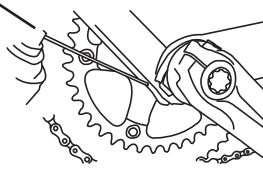


チェーン

ギヤクランクを回しながら注油して余分な油は拭き取る。

ワイヤーリード

ワイヤーがこすれる部分。



ブレーキレバー (左・右)
レバーの可動部分とワイヤーの固定部分。

ブレーキ本体 (前・後)
ブレーキアーチの可動部分。
※ブレーキシューやリムに油が付かないように布でカバーしながら注油して下さい。

保管のしかた

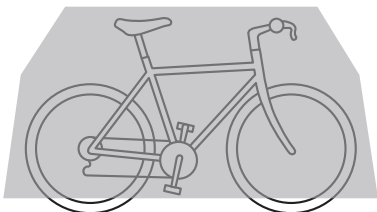


注意

湿気が多い場所に保管するとさびや劣化を促進します。やむを得ず湿気が多い場所に保管される場合は、お手入れの回数を多くしてください。

●乾燥した場所に保管

雨が降らない乾燥した場所に保管してください。雨のかかる場所で保管する場合は、市販の「サイクルカバー」やビニールシートを使用してください。



●暖かい場所に保管

寒冷地では水分が凍ってパーツの作動が悪くなる場合がありますので、暖かい場所で保管してください。

●外部から影響のない場所に保管

煙、潮風、直射日光、金属作業の火花、除草剤や殺虫剤の薬品などが自転車にかからないような場所に保管してください。

●さびの発生しやすい場所に保管する場合

海岸、湿気が多い場所、大気汚染発生地域、工場地帯、便所や浄化槽の近くなどさびの発生しやすい場所に保管する場合は、お手入れの回数を多くしてください。



警告

長期保管後に再使用される場合は、乗車前に販売店で点検整備を行ってください。

廃棄について

自転車を廃棄するときは、お住まいの地域のルールに従ってください。

品質保証規定

保証の内容

お買い上げいただいたFELTバイクは厳重な品質管理と検査によって製造された自転車です。取扱説明書にしたがった通常の使用状態で品質上の不具合が起きた場合は、不具合部品の交換または補修によって修理（以下保証修理）をいたします。

交換する部品がモデルチェンジや生産中止によってご用意できない場合などは、同等品と交換になる場合があります。なお、交換した不具合部品は弊社の所有となります。

この保証は他のいかなる保証に対しても優先するものです。

保証の期間

- ①リジッドフレームとリジッドフォーク：お買い上げ日から1年間とします。（サスペンションフレームは除きます。）
- ②消耗部品を除く一般部品：お買い上げ日から1年間とします。
- ③リアサスペンション、フロントサスペンション、サスペンションシートポスト：製造メーカーの保証規定によります。

保証対象外の消耗部品

次の部品につきましては保証の対象外になります。

タイヤ、チューブ、バルブ、リムフラップ、変速機、チェーン、スポーク、ニップル、グリップ、バーテープ、エンドプラグ、ブレーキシュー、ディスクブレーキパッド、サドル、レバーパッド、カゴ、バッグ、ペダル、トークリップ、トーストラップ、ワイヤー類、ネジ類、スプリング類、ベアリング類、ブッシュ類、サスペンション部品類、その他これらに類するもの。

保証の登録

保証修理を受けるためには品質保証および盗難補償はオンラインでのユーザー登録が必要になります。お買い上げ日より30日以内に必ず弊社Webサイトにて手続きをお願いいたします。領収証など必ず保管してください。

ユーザー登録が無い場合、無効となり保証修理は受けられません。

保証修理の手続き

保証修理については、お買い上げいただいたFELTの正規販売店にご相談下さい。保証修理を受ける場合は法的に根拠のあるご購入の証明書（領収証など）とユーザー登録が必要で、これらをお持ちでない場合保証修理は受けられません。

保証修理の条件

- ①品質保証および盗難補償はオンラインでのユーザー登録が必要になります。お買い上げ日より30日以内に必ず弊社Webサイトにて手続きをお願いいたします。無い場合は無効です。
- ②保証修理は、最初にお買い上げいただいたご購入者の方に限定しています。自転車を譲渡または貸与した場合は無効になります。
- ③保証修理は、FELTの正規販売店で組立・調整された自転車に対し有効になります。（並行輸入や個人輸入された自転車は無効です。）
- ④保証修理は、ネットオークション、フリーマーケット、個人売買などでご購入された自転車には適用されません。また、それらの自転車についてお近くのFELT正規販売店で保証修理を受けることはできません。
- ⑤保証修理は、日本国内で使用される自転車で、車体ナンバーの刻印のあるものに適用されます。海外へ持ち出された場合はその時点で打ち切りになります。
THIS WARRANTY IS VALID ONLY IN JAPAN.
- ⑥保証修理はすべてお買い上げになったFELT正規販売店を通して行っています。ご購入いただいた販売店以外ではすべて有料になります。
- ⑦保証修理に必要な作業工賃や輸送経費は保証の対象外です。また、出張修理をお申し付の際は出張費をいただきます。
- ⑧不具合部品による保証修理になり、完成車の交換はできません。

⑨品質上の不具合が製造上によるものか、ご購入者の取り扱い上の不注意によるものか判断が困難な場合に、公的検査機関の判断をあおぐ場合があります。

⑩この保証は不具合部品の交換や修理に限られます。弊社は付随的な損害、また拡大的（特殊）な損害にはいかなる責任も負いません。

⑪保証期間経過後の修理は有償になりますが、お買い上げの販売店にご相談ください。有償の修理料金には作業工賃、パーツ代、発送手数料（輸送経費）が含まれます。

⑫完成車の代替部品（補修用性能部品）は原則8年保有とさせていただきます。ただし代替フレーム（補修用車体本体）は原則3年保有とさせていただきます。

保証対象外の事項

次に示すものに起因すると判断される不具合は保証いたしません。保証期間内でも修理は有料になります。

- ①ユーザー登録をお買い上げ日より30日以内に行っていない場合。
- ②取扱説明書に従わない使用状態や、警告、注意、禁止、強制などの厳守事項の無視により生じたもの。
- ③過大な積載や2人乗りなど、法令の違反行為により生じたもの。
- ④衝突や転倒などの事故や、縁石への乗り上げなどの誤った使用、継続的な酷使、故障したままの使用などによるもの。
- ⑤レース、ラリー、トライアル、スタント、ジャンプ、アクロバット、練習などによる酷使や、道のない山岳地帯、河川の土手や河原など、一般に自転車が走行しない場所での走行によるもの。
- ⑥ユーザー登録の記載者以外の不特定多数が使用した場合に生じたもの。
- ⑦レンタサイクルなど不特定多数によって使用した場合に生じたもの。
- ⑧荷物運搬や新聞配達など、業務用で使用した場合に生じたもの。
- ⑨FELTの正規販売店以外での組み付け、調整、修理によるもの。
- ⑩弊社が指定した部品と異なる部品を使用して生じたもの。
- ⑪最初に販売された状態と異なる部品や装置による改造によって生じたもの。
- ⑫弊社が指定する定期点検や整備を怠り、その不備によって生じたもの。
- ⑬消耗部品の通常の摩耗や疲労によるもの。また、それによって生じた二次的な故障及び損傷。
- ⑭クギ、ピン、ガラス、切削クズ、鋭利な石、空気不足、縁石への乗り上げ、溝への落ち込みなどにより生じたパンク。
- ⑮地震、落雷、水害、塩害などの天災地変や、火災、公害などの人災により生じたもの。
- ⑯塗装、メッキ、プラスチックなどの自然褪色やさび、タイヤのひび割れなど、時の経過により発生した変化。
- ⑰音や振動など、一般的に判断して機能的に問題のない感覚的現象。
- ⑱フレーム、フロントフォーク、ハンドルバー、シートポスト、リムの変形や曲りは本保証から除外されます。これらの変形や曲りは設計時に想定し得ない過酷な使用や誤使用の結果とみなされます。

法的責任

この保証書は本書に明示した期間、条件のもと保証修理をお約束するものです。したがって、この保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

アフターサービス（修理の依頼）

保証期間中は、お買い上げの販売店が保証書の規定に従って修理させていただきます。（ご使用状況などにより有償修理となる場合があります。）お買い上げの販売店にお持ち込み願います。保証期間が過ぎた後も、お買い上げの販売店にご相談願います。

盗難補償規定

補償の内容

お買い上げいただいたFELTの自転車もしくはフレーム（フレームキット）が万一盗難にあった場合、盗難された商品と同じタイプの新商品を特別な価格でお買い求めいただくことができる制度です。

補償の対象と範囲

お買い上げいただいた自転車もしくはフレーム（フレームキット）が盗難にあわれた場合、追加した部品やアクセサリーを除く標準仕様の範囲内で補償致します。フレーム（フレームキット）でお買い上げいただいたものはフレーム（フレームキット）のみの補償で、装着した部品やアクセサリーを除きます。

補償の期間

お買い上げ日から6ヶ月とします。

補償の登録

盗難補償を受けるためには事前の補償登録が必要です。ユーザー登録をお買い上げ日より30日以内に行い、控えと領収書などは必ず保管してください。

ユーザー登録が無い場合は無効となり、補償は受けられません。

補償の内容

原則としてお買い上げいただいた自転車もしくはフレーム（フレームキット）と同じ新商品（生産中止または価格変動の場合などは最近似の商品）を、次の内容により、代替商品として補償致します。

商品の種類	お客さまのご負担内容
一般の自転車	標準現金販売価格(弊社カタログ表示価格)の60%+組立手数料 3,000円
フレーム (フレームキット)	標準現金販売価格(弊社カタログ表示価格)の60%(組立手数料は販売店とご相談下さい。)

*消費税は含まれていません。

補償の手続き

補償を受ける場合は、お買い上げいただいたFELTの正規販売店に次の書類を添えてお申し込みください。

- ①盗難届出書
盗難にあった地区の警察署に届け出るもので、盗難届出日、盗難届出警察署名、届出受理番号、担当警察官名、などが記入されている証明書です。
- ②ユーザー登録時のお名前とお電話番号。
- ③法的に根拠のあるご購入の証明書（領収証など）。

販売店では、手続きが確認でき次第お客さまにご連絡致しますので、補償内容に基づく金額（現金）と引き換えに新商品をお受け取りください。

補償のご請求は盗難届出日から30日以内をお願いします。

補償の条件

- ①ユーザー登録をお買い上げ日より30日以内に弊社Webサイトにて行っていること。
- ②盗難補償は、最初にお買い上げいただいた購入商品のみ限定しています。商品を譲渡または貸与した場合は無効になります。
- ③盗難補償は、FELTの正規販売店で販売された商品に対し有効になります。（並行輸入や個人輸入された商品は無効です。）

④盗難補償は、ネットオークション、フリーマーケット、個人売買などでご購入された商品には適用されません。また、それらの商品についてお近くのFELT正規販売店で補償は受けられません。

⑤盗難補償は、すべてお買い上げいただいたFELT正規販売店を通して行っています。ご購入いただいた販売店以外では、FELT正規販売店であってもお受けできません。

⑥盗難補償を受ける場合、日本国内で使用される商品で車体ナンバーの刻印のあるものに適用されます。海外へ持ち出された場合はその時点で打ち切りになります。

THIS COMPENSATION IS VALID ONLY IN JAPAN.

⑦補償された新商品はFELT正規代理店の店頭でお渡しします。販売店の了承があって、お客さまが指定する場所に発送する場合、作業工賃、梱包費用、輸送経費などは対象外で、別途費用の支払いが必要です。

補償できない場合

- ①ユーザー登録をお買い上げ日より30日以内に行っていない場合。
- ②盗難補償期間（半年間）が過ぎている場合。
- ③補償のご請求が盗難届出日から30日以上経過している場合。
- ④補償の手続きに必要な①、②、③、の書類が揃っていない場合。
- ⑤盗難補償でお渡しした商品が再盗難にあった場合。
- ⑥盗難された商品が見つかり、返ってきた場合。
- ⑦海外で盗難にあわれた場合。
- ⑧施錠しないで盗難にあわれた場合。
- ⑨防犯登録がされていない場合。

生産などの都合で、同じ商品をお渡しできない場合がありますことをご了承願います。

定期点検と整備

お買い上げの自転車につきましては、お買い上げになった販売店で必ず「定期点検整備リスト」に基づいて、点検と整備をお受けください。適切な点検と整備を欠かさなければ、長年にわたってFELTバイクをお楽しみいただけます。保証修理を受ける場合も、点検と整備を受けていることが必要な条件になっています。点検や整備の不足は人身事故につながる危険があります。

点検、整備、修理、交換、掃除、注油、などはすべて「有料」になります。

初回（2ヶ月目）点検と整備

お買い上げ2ヶ月目のご使用で、各部分にネジのゆるみが発生する場合がありますので、お買い上げの販売店で点検と整備をお受けください。

2回目以降（1年に1回）の点検と整備

2回目からは、1年ごとに1回は点検と整備を実施してください。安全にご乗車いただくために、毎年継続してお受けください。点検時期外でも、異常を感じたら点検と整備を実施し、調整や修理をしてください。点検や整備の不足は人身事故につながる危険があります。

消耗部品交換時期の目安

消耗部品は異常がなくても安全を維持するために交換してください。

- ・ブレーキワイヤー：2年に1度交換してください。
- ・シフトワイヤー：2年に1度交換してください。
- ・ブレーキシュー：リムに当たる面の溝の残りが1mmになる前に交換してください。
- ・ディスクブレーキパッド：残りが0.5mmになる前に交換してください。
- ・タイヤ：溝や接地部分の模様が無くなる前に交換してください。
- ・チェーン：5,000kmの走行で交換してください。

(注) 上記は目安で、使用状況に応じて変わりますので、常に点検をお願いいたします。

定期点検と整備リスト

自転車は定期点検が必要な乗り物です。
 下記リストに順じて整備記録が行われていない車両は安全に乗り込んでおくことが出来ず、重大な事故やけがを引き起こす可能性がございます。必ず定期整備点検を販売店様にて行うことを推奨いたします。※3年目以降も行ってください。

(確認) ○=良好 ×=不備

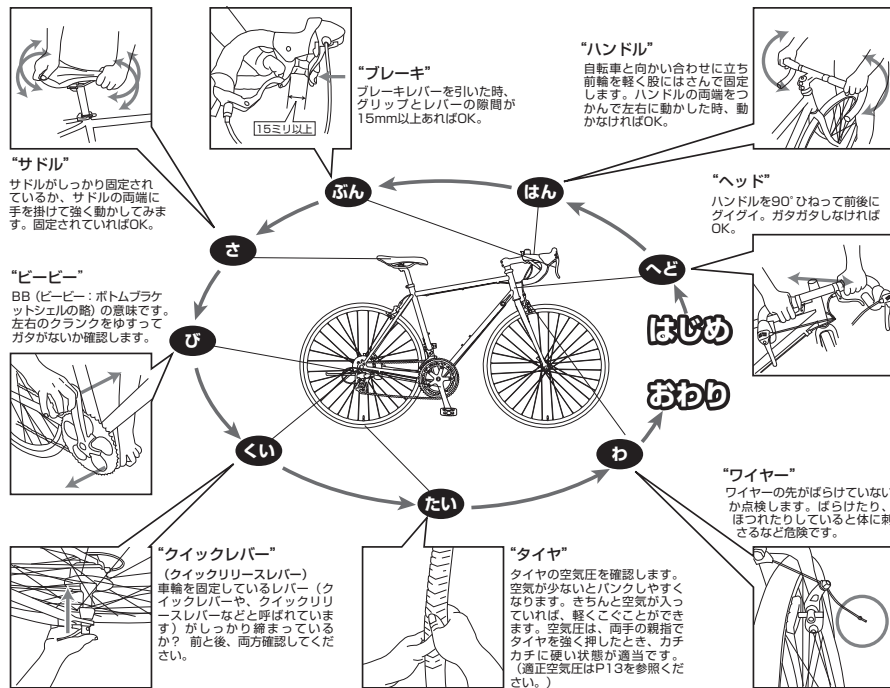
点検箇所	点検項目	2ヶ月	1年	2年	3年
サイズ	大きさは乗る人の体格に合っているか				
フレーム・フォーク	変形、ひびわれ、折損、などがないか				
	ヘッドやBB（ボトムブラケット）にガタや摩耗はないか				
ハンドルバー・ステム	ハンドルの高さは適当か				
	ハンドルステムの挿入位置は適正で固定は確実か				
	軽く回転するか				
フェンダー・チェーンケース	変形がなく取り付けは適正か				
キャリア・バスケット	変形がなく取り付けは適正か				
スタンド	取り付けが確実に作動はよいか				
タイヤ	空気圧は適当か				
	すりへっていないか、キズはないか				
リム	変形し、へこみや曲り、振れなどがないか				
スポーク	張っているか、ゆるみはないか				
	切れたり、リムやハブから外れていないか				
ハブ	ハブナットのゆるみはないか、クイックリリースレバーはしめつけられているか				
	回転部分にガタがないか、正常に回転しているか				
ギヤクランク	チェーンリングの振れ、クランクの曲り、ひび割れはないか				
	固定は確実か（クランクの増し締めをする）				
	ガタがなくなめらかに回転するか				
フリーホイール	軽く回転し、異音がないか				
	注油はされているか				
チェーン	伸びてたるんでいないか、張りは適正か				
	ギヤと噛み合せは適正か				
	注油はされているか				
ペダル	なめらかに回転するか				
	クランクに確実に固定されているか				
	クランクに対し直角になっているか、軸の曲りはないか				
	変形、カシメ不良、ねじのゆるみはないか				
ブレーキ	レバー間隔は正常で前後のブレーキがよく効くか				
	ブレーキシューやディスクパッドが減っていないか				
	ワイヤー類にさびやほつれがないか				
サドル・シートポスト	高さや前後位置が適正か				
	確実に固定されていて、ガタやキズはないか				
	シートポストの挿入位置は適正で固定は確実か				
ディレーラー	ギヤチェンジは正確に作動するか				
	作動しているときにチェーン外れはないか				
	ワイヤー類にさびやほつれはないか				
リフレクター	取り付け角度が適正で汚れや破損はないか				
ベル	取り付けが確実によく鳴るか				
錠	取り付けが確実に作動は正常か				
ランプ	取り付けが確実に点灯や照射は正常か				
ネジ類	ゆるみや損傷がないか、紛失していないか				
実施者確認	2ヶ月 実施	年 月 日 <input type="text"/>	1年 実施	年 月 日 <input type="text"/>	
	2年 実施	年 月 日 <input type="text"/>	3年 実施	年 月 日 <input type="text"/>	
その他整備記録					

必ず乗車前に簡単点検をお願いします。(注)

簡単点検でまず安心

点検場所が「あいことば」になっていますので、「あいことば」に従って…
へどはんぶんさびくいたいわ

なれると
1分間で
できちゃうよ



(注) 点検や整備の不足は人身事故につながる危険があります。

品質保証および盗難補償はオンラインでの
ユーザー登録が必要になります。
お買い上げ日より30日以内に必ず弊社Web
サイトにて手続きをお願いいたします。

URL:<http://www.riteway-jp.com/regist>

もしくは「ライトウェイ ユーザー登録」で検索してください。

※登録手続きがわからない場合はご購入頂きました販売店へご連絡ください。

この取扱説明書を許可なく複製・変更することを禁じます。
© RITEWAY PRODUCTS JAPAN K.K. ALL Rights Reserved.

www.riteway-jp.com



ライトウェイプロダクツジャパン株式会社
〒171-0022 東京都豊島区南池袋3-18-34 池袋シティハイツ102 TEL.03-5950-6002 FAX.03-5956-8028
ライトウェイプロダクツジャパン(株)は国際標準化機構(ISO)が定める「環境マネジメントシステム規格」ISO14001認証取得企業です。

